メメントC主催・山の羊舎協力　企画

2023年12月13日～17日　中野　ザ・ポケット

2023年再演版　上演台本

「私の心にそっと触れて」愛は記憶されるのか？

作・嶽本あゆ美

演出・山下悟

MEMENTO C

【概要】
アルツハイマー病で記憶を失っていく医師と、その消えゆく過去に翻弄される妻の物語。人の記憶によって形作られる過去、アイデンティティ、その全てが病気の進行とともに不確かとなり、パーソナリティさえも変貌するアルツハイマー病。その末期に、愛はどう記憶されるのだろうか？存在と生息の狭間、最後の核のように残るものは果たして何か？魂と心の深淵をドラマによって探る。
【時】現代・２０１８年４月末～２０２１年４月
【場所】北鎌倉の緑あふれる医師の家、病院の一室。

【登場人物】
清棲 滋（きよずみしげる）　治承大学医学部付属病院脳神経内科の教授だったが、定年間近で医局内の医療ミスで教授を辞任、定年後、系列の難病治療研究センターに移り、非常勤医として６８歳で退職。
清棲 知佳（ちか）　滋の妻　専業主婦　６６歳、滋の大学時代のテニスサークル仲間。園芸が趣味。老後に趣味のフラワーアレンジメントのサロンを開く夢を持っている。
清棲 理子（りこ）　長女　４０歳、弁護士、二人の中学生の娘を持つ　離婚歴あり。
村田浩一　介護サービスの訪問看護師　４４歳　治承大学病院の脳神経内科医師だったが、８年前に医療ミスで失職、介護施設の看護師となる。
丸山辰夫　タッチャマと呼ばれる。滋の元同窓。整形外科医で今は開業医　７０歳（留年と浪人）妻の幸子がリウマチを患っている。
小林光子　滋の元患者　国際的に活躍するピアニスト　５０代中頃
曽根村久恵（そねむらひさえ）　医局の秘書　滋の愛人　４５歳　シングルマザー
藤井陽子　ケアマネージャー　５０代前半

MEMO

鈴木聡　　理子の現在のパートナー　４２歳　ミツイシ製薬会社のＭＲ（営業）
佐藤・ジャニス・ミヨン　介護ヘルパーのフィリピン人　２０代後半　子持ち
他・治験コーディネーター（鈴木役の俳優が兼ねる）

ロケーション
２０１８年の四月中旬。北鎌倉、住宅地から少し外れた山沿いにある戸建ての家。
アントニン・レーモンド建築のような木の筋交いと間仕切りの家。外には草花や樹木。
中央エリアは、ダイニング。大きなフランス窓、ソファセット、セットバックした壁には本棚などがあり、医者の住む家としては、地味だが行き届いた手入れを感じられる風情のある住宅。
リビングには知佳の趣味でもあるフラワーアレンジメントが設えられている。
トイレ、ベッドルームが見えない場所にある。次元の違う空間に清棲滋の書斎がある。
別のシーンでは空港、診察室、介護ステーション、病院のデイルームなどがある。
ここには具体的なセットを示したが、象徴的な構成空間で上演することも可能である。

MEMENTO

プロローグ

サロンに知佳が花を持って現れる。上品なサロン・エプロン姿。知佳、鋏で花を切り、花瓶に生け始める。滋が知佳を俯瞰する場所に登場。

知佳　これは私が経験したことなのです。でもあなたの場合とは違うかもしれません。

滋　これは私が経験したことなのです。でもあなたの場合とは違うかもしれません。本当のところ、どれが真実だったのか、自分でも確信が持てない。私は脳神経内科の医師で大学病院に勤めていた。ところが私はのん気で、一体自分の身に何が起きているのか分かろうとしなかった。…記憶や経験ってものはどこに溜まるのかご存じですか？（頭を差し）ここだけじゃない、筋肉、体はもちろん、それから自分に最も近い他人の記憶の中。ほら、彼女は愛する私の妻、知佳です。

知佳　……これは私が経験したはずのことなのです。記憶の中では何も変わらないあの人です。でも実際には、何が真実なのか？例えばこの花、綺麗ですけどやがて散る……

滋　彼女は賢くて現実の中では私より優れていた。知佳が、私を伴侶に選んでくれました。でも彼女が選んだ私は、あれからどこにいるのか？

知佳、花を飾る。

知佳　……季節がめぐれば、また花は咲く。でも私たちはそうできない。

兎に角、私はのん気でした。その日も、こうやって花を飾っていたんですから。

滋　私は二か月前に骨折し、やっと家に戻りました。（去る）

MEMENTO

第一場・2018年4月の終わり・清棲家のリビング

鳩時計が午後三時を告げる。
インタフォンのチャイム、花屋の声。知佳がモニターに向って返事する。

花屋(声のみ)清棲さん、鎌倉花壇です。お花のお届けにあがりました。
知佳　はーい！ちょっと待って解錠だ、今、開けます。ええっと、開錠開錠・・・

玄関の方角から、花のアレンジとシャンパンの包みを持った丸山が現れる。

丸山　やあ！知佳ちゃん、早かったかな？
知佳　あらま、タッチャマ・・・
丸山　退院、おめでとう。これ、受け取っておいたよ。花屋さん急いでたから。
知佳　あらごめんなさい。神経難病患者会・・・
丸山　滋は？
知佳　理子とお昼に着いて、荷物を整理してるところ。見てよ、ほら、開店祝いみたいでしょ。
丸山　ほほう、脳神経内科に・・・製薬会社・・・難病センター
知佳　治承大学病院テニス同好会、医局に薬局・・・
丸山　こりゃめでたい。退院と退職が同時だからね。
知佳　これでようやく面倒なお付き合いが終わるのかしら。

ピーピーというセキュリティのアラーム音。

MEMENTO

知佳　もう！今、閉めるから！わかってるわよ。
丸山　誰と話してるの？
知佳　面倒なセキュリテイ。ドアが開いたままよ。カチッと言わないとだめなの。
丸山　ええ？僕？すまんねえ。

知佳、ドアを閉めにいく。丸山、家の中をきょろきょろと見回す。
知佳と入れ違いに娘の理子の声。滋が杖を付き、理子に支えられ、書斎からリビングに現れる。

理子　お父さん、気を付けて足元、段差あるわよ…丸山先生！いらっしゃい。
丸山　やあ理子ちゃん、滋！
滋　タッチャマ、久しぶりだ。はっはー！遂に娑婆に出た。娑婆だ娑婆だ。
丸山　娑婆にようこそ！理子ちゃん、親孝行だね。
理子　今しないでいつやるの。
丸山　元気そうでよかった。
滋　今朝まではビクビクと病院のベッドに居たが、晴れて自由の身だよ。
丸山　君が、ビクビクだって？想像もつかない。楽しみにしてきたよ。これで乾杯しよう。（シャンパンを渡す）
滋　おお、ありがとう。今夜はパーッとやろう。
理子　まあ、シャンパン、御馳走さま！お父さん、少し大人しくしていた方がいいわ。躓いたらアウト、車椅子になっても知らないわよ。
滋　一々うるさいな、骨折しただけだぞ。
丸山　大腿骨頸部外子間骨折、右足関節脱臼骨折……立派なもんだ。
理子　次、やったら寝たきりよ。

MEMENTO

滋　やめてくれ。年寄り扱いするな。

今度は台所からケトルの湯が沸騰する音がして止まる。

知佳、戻ってくる。

知佳　あらあら・・・

滋　騒々しくてたまらん。

理子　大丈夫、自動で止まるの。オール電化にしたのよ、鬼の居ぬ間に。

知佳　勝手が変わりすぎて落ち着かないの。

丸山　素敵にリフォームできたじゃないか。

滋　我家とは思えん。たった二か月留守しただけなのに、乗っ取られた気分だ。

理子　分かってないわね。父さん達が向かっていく先は老化。

丸山　廊下、あの辺にも手すりが必要になるね。

滋　君までひどいじゃないか。

丸山　事実だよ、事実。

知佳　(笑いながら)兎に角、難しい家になったことは確かだわね。理子、書斎の曽根村さんに声かけてきて。そろそろお三時よ。

理子　はいはい。この家はジェンダー指数最悪。それにしてもすごい花、ハリウッドスターでもいるのかしら？

理子、書斎へ去る。丸山、飾られている孫写真を見る。

知佳、会話の途中でビールを用意する。

MEMENTO C

丸山　優秀なる娘は弁護士、可愛い孫・・

知佳　何言ってんのよ。娘なんて大泥棒よ・・・

丸山　大泥棒？

知佳　嫁に行ったり戻ったり、何だかんだと物入りよ。孫のバレエの発表会に振り回されてくたくた。

丸山　穏やかじゃないね。

知佳　そうなのよ、献身的な自分へのご褒美に、退職したら世界一周って前から決めてたの。それなのに病院の階段から落っこちて、豪華客船のクルーズがパー！

丸山　まあまあ、ゆっくりリハビリでも。人生、百年だからね。・・

知佳　冗談やめて。主婦は死ぬまで定年が無いのよ。私だってやりたいことがあるのに。

滋　時間なんかこれからいくらでもある。

丸山　やりたいことって何？

知佳　ちょっとしたフラワーアレンジメントのサロン、ガーデニングも。ターシャ・テューダーの庭を目指しているのよ。

滋　あの庭、草ボーボーじゃないか。

丸山　滋、駄目じゃないか。今日は楽しくやりに来たんだ。

滋　鬱憤を晴らそうと、君を待ち構えていただんだよ。

知佳　ハイ、(ビールを渡しながら)いつもので御宜しいわよね？

丸山　お宜しく、まずは乾杯しよう。滋の帰宅を祝って。

三人　乾杯！

三人、乾杯する。彼らの普段のペースを取り戻してくつろぐ。

MEMENTO C

知佳　何度でもどうぞ。
滋　昔を思い出すな。
丸山　……これで、ようやく君も現場から離れる。
滋　うんまあ、一区切り、いや本当に区切りだな。
丸山　絶対に開業は、勧めない。君は長年、難病患者に尽くしてきた。これから夫婦水入らずで幸せに暮らすんだ…
知佳　ねえ……幸子さん、最近どうなの？
丸山　まあ変わらない。今日はともかく滋の慰労だ。
知佳　・あら、ボタンとれてる。
丸山　え？・・・
知佳　つけたげようか？
丸山　いいよ。（ジャケットのカフスを隠し）
知佳　悪いの？幸子さんのリウマチ？
滋　そのうちに花見でもしよう。幸子さんも呼んで。裏山の桜はまだ残ってる？
知佳　もう終わり。今は白いコブシが満開よ。早く散歩できるといいわね。

廊下から理子と曽根村の声が聞こえてくる。

曽根村　…それから入院中に退職のご挨拶状などもご準備させて頂きました。

二人がリビングに現れる。曽根村は水色のティファニーの紙袋を持っている。

MEMENTO C

理子　完璧だわ、曽根村さん。ありがとうございます…
知佳　お疲れ様。そろそろお三時にしましょう。
滋　ありがとう、雑用を頼んで済まない。
曽根村　差し出がましいとは思ったんですが、まだご無理されないでくださいね。
滋　君のお陰で残務も何とかなったよ。それから、僕の診療記録についてだが、
曽根村　医事課と相談が要ります。情報持出しの手続きを済ませておけばよかったですね。
滋　近い内に出向くとするか。又、頼む。
知佳　あなた、図々しいわよ。もう退職したのに。
曽根村　いえ、医局にも荷物がそのままですから。
理子　私もビール(頂くわね)。曽根村さんはノンアル?コーヒー?
曽根村　いえ、お構いなく。

理子、キッチンで缶ビールを取り出して一人で飲み始める。

知佳　…もう行儀が悪いわよ、誰に似たんだか。(知佳、曽根村に飲み物を出す)
曽根村　(笑う)頂きます。
丸山　滋、娘っていうのは幾つになっても可愛いもんだな。
滋　その可愛い弁護士さんが凄腕でねえ。出戻り娘も役に立つよ。
理子　そうよ、私が居なかったらどうなってたことか。何しろ、父さんは自分が何の保険に入っているかもわかってない。
丸山　頼もしいな。何かあったら宜しく頼むよ。
理子　弁護士料は成功率に比例します。今回は、保険の請求に退職の手続きも全てボランティア。

MEMENTO

知佳　何、その言い方。身内にボランティアって何？
理子　そこよ、そこ。丸山先生は身内を無料で診察します？ちゃんとカルテ作って医療保険使うでしょ？
丸山　もちろんだ。
理子　私も同じプロフェッショナル。
滋　高くつきそうだ。
知佳　あんまりな言い方よ。家族でしょ？ じゃあ私は？主婦はプロじゃないってわけ？
理子　勿論、母さんも報酬を得る権利があるわ。
知佳　考えたこともなかった。思いやりを感じないわ。
理子　母さんには感謝してる。父さんは、これまで母さんにずっと支えられてきた。
滋　おっと矛先が変わったぞ。
理子　幸せな老後の為に、ちゃんと二人で話し会ってね。入院中も問題ばかりよ。出前はとる、外出はする、大勢でデイルームを占拠して麻雀はする。なのに師長さんも見て見ぬふり。
滋　骨折患者は寝てるだけ。暇すぎて拷問だ。
曽根村　清棲先生ですから、みんな諦めますわ。
滋　諦めてたのか？
理子　ほら、やっぱり。
滋　… まあ四十年も居た古巣をようやく卒業だ。
丸山　君を悪く言う人に会ったことない、君たち以外にはね。
理子　愛情からよ。
知佳　もう、みっともないわよ。
曽根村　…御馳走さまでした。そろそろ失礼します。
滋　ええ？飯、食べていかないの？パーティーやるぞ。

MEMENTO C

知佳　そうよ、遠慮しないで。お寿司とってあるし、オードブルも。
滋　医局の連中、もうすぐ来るだろ？
曽根村　あの……皆さん、ご退職のお祝いはまた改めて伺いますのでと。
知佳　ええ？そうなの？だって、あなたあと五人は来るって…
滋　声はかけた。携帯、携帯……（ポケットを探し）あれ？
理子　ストップ、動かないで！（早業でスマホを掛ける）「電源が入っておりません」まただわ。まさか病院に…
曽根村　あの…さっき書斎にありました。デスクの下に。
滋　ありがとう。
理子　あー良かった。また探し回るのかと思った。
曽根村　あの……（自分のスマホを確認する）……カンファレンスが終わらないそうです。脳外も救急で、今日は無理だそうです。
丸山　仕方ない。そういうもんだろ？
滋　ま、残念だが。－
曽根村　…先生、奥様にこれを…（水色の紙袋を滋に渡す）
滋　そうだ知佳に土産があった。
知佳　まあ何かしら？

滋、知佳に包みを渡す。知佳、ワクワクしながら銀のハンマー（打腱器）を取り出す。

知佳　……？
滋　我々、脳神経科の医者はこのハンマーさえあれば、無人島でも正しい診断ができる。上手に叩けば、君の左右の腱反射の違いもたちどころに分かる。僕の調子が悪かったらこれで確かめてくれ。

MEMENTO C

曽根村　奥様、ティファニーの特注なんですよ。文字も彫ってあります。
知佳　・・・(じっとハンマーを見つめて)「知佳へ感謝をこめて」

知佳、ため息をついてハンマーで自分の肩を叩く。

丸山　そういう風に使うんじゃないよ。
滋　気に入って頂けました？
知佳　……ありがとう。百均よりはいいわ。今頃、ほんとはクルーズ船に乗ってるはずだったのに。
丸山　すっかり治ったら世界一周に行けばいい。ボンボヤージュ！
滋　そう、時間なんかこれからいくらでもある。なあ知佳？
知佳　…あんまり楽しくなさそうね。
理子　もうあきらめて。父さんを選んだのは母さんでしょ？私、次は絶対失敗しないから。
丸山　さあ、お祝いだ。今から楽しい事だけを話そう。いいね？
理子　OK、今から楽しいことだけを話す。みんないい？
滋　ルールをちゃんと守ってくれよ。
丸山　さあ、シャンパンだ！清棲滋君の退職と退院を祝って！

はりきってコルクを抜こうとする丸山。ようやくポンという音。皆、ストップモーション。

知佳　そう、時間はいくらでもあると思っていた。私はのんきで愚かだったんです。

暗転・音楽

MEMENTO C

第二場・夕方・リビングでのパーティー

ホームパーティーが始まっている。理子のパートナーの鈴木が加わっている。曽根村も残っている。

皆　乾杯！

乾杯を続ける一同。理子がワインをサーブしている。
食事は終わり、チーズのアラカルトを持って出てくる知佳。皆、かなり寛いでいる。

理子　はーい！お待ちかねの三杯目。（サーブする）
丸山　はい、ありがとう！さあ、何回でも乾杯！
知佳　さあ、食後のチーズよ。
曽根村　お手伝いしましょうか？
知佳　いいのよ、ゆっくりしてて。
鈴木　清棲先生、やはり奥さまの手料理が一番でしょう？

滋は鈴木に話しかけられて、胡乱な顔でチーズを手に取る。

滋　まあ…
理子　私が買ってきたの。成城石井で３０％オフ、食べ頃よ。
知佳　他に言い方ないの？
鈴木　まさに熟成チーズ！
理子　父さん、どうかしたの？
滋　（ピックで刺したチーズを凝視している）僕の偏桃体が湧き立たない。
理子　ヘントウタイ？

MEMENTO C

丸山　君の嗅上皮（きゅうじょうひ）に到達したチーズの香りは、その大脳辺縁系（だいのうへんえんけい）に指令を出す偏桃体を揺さぶってくれないのか？　困ったな。

理子　ブ～！それ、ルール違反。楽しくないもの。

丸山　（食べて）うん、うまい。ノー・プロブレム！

曽根村がテーブル周りを捌き、片付けていく。

滋　曽根村君、ところであの男…

曽根村　ミツイシ製薬のMRの方ですが。

知佳　どうしたの？（割って入る）

滋　…誰が呼んだ？

知佳　理子に聞いて頂戴。後で大事な話しがあるって。曽根村さん、お引き留めしてごめんなさいね。

曽根村　いえ……こちらこそ長居して…

丸山　それで……君のミツイシ製薬はアストラゼネカに吸収されるんだって？

鈴木　ええ、新薬開発部門をパイプラインごと、売却したんです。　国内は治験に時間が掛かりすぎて、外資には太刀打ちできません。

理子　ねえお父さん、聡は来月、ロンドンへ出張なのよ。

滋　ロンドン、ロンドン？

鈴木　ロンドンで新規事業の立ち上げです。今や、治験の為に日本人を国外へリクルートする時代です。日本のような長寿社会は、世界では類を見ませんからね。

丸山　やれやれ…人生百年、ぴんぴんころりとはいかないねえ。

MEMENTO C

知佳　じゃあ、みんなで巣鴨のとげぬき地蔵にお参りする？
滋　よし、行こう！
丸山　おいおい本気かい？
鈴木　若さや健康はこの先、一番贅沢な買い物になるでしょう。現に、アンチエイジングの為なら、金に糸目をつけない富裕層が増えてます。
滋　不老不死なんてのはナンセンスだ。
私の神経内科には、治療法も見つからない難病患者がまだ大勢いる。経済的理由で治療が続かない患者もね。
鈴木　いずれは、新しい薬も安くなります。市場があれば。
滋　その市場から、落ちこぼれる人は必ずいる。それに治験は、誰かは新薬を飲み、誰かは偽物を飲む。副作用も必ずある。随分恨まれたよ。
鈴木　そのストレスを、治験コーディネーターが引き受けます。ある程度の犠牲の上にブレークスルーが生まれます！今、認知症薬の開発はまさにそういう状況です。
滋　ものは言いようだ。人体実験。
理子　ストップ、楽しくない言い方ね。安全だから治験するのよ。勿論、例外はあるけど・・・
滋　お前みたいな弁護士に、何がわかる。難病の患者は藁にもすがる思いだ。健康は金じゃ買えない。
知佳　ストップ！楽しいことだけを話すルールじゃなかった？
丸山　そう、ストップだ。
鈴木　（空気を読まない）もし可能なら、清棲先生に治験のパートナーとして……
知佳　ストップ！イエローカード！今日は退職祝いなの。

滋、飲み物を置く。

MEMENTO

滋　今日、若い看護師に言われた。「清棲さん、今後はリハビリに励んで下さい」。退職っていうのは社会からの退場勧告だ。…今度こそもう医師ではなくて患者の立場…思う様にはならん。ちょっと手をかしてくれ。

滋立ち上がろうとしてよろめく。鈴木、支えようとする。

滋　君に介助されるほど親しかったかな？（杖を受け取って）

鈴木　お手伝いします。

滋　独りでできる。

滋、杖をとり、トイレ方面へ。鈴木、追いかける。

鈴木　今度、わが社のサプリをお持ちします。フランス海岸松がお勧め……

滋　他人の前立腺の心配なんて失礼だぞ！

滋はトイレに行かず、書斎に行く。

理子　頑固おやじ！

丸山　理子ちゃん、もう難しい話は勘弁だ。もっと楽しい話を。

理子　じゃあね、私、再婚するの。

丸山　そりゃめでたい。でも誰と？

理子　分からないの？丸山先生、大丈夫？

MEMENTO C

鈴木　いや～～難しいですね。（戻ってくる）
知佳　なんて言うかしらね？（キッチンへ）
鈴木　お手伝いします。（知佳の後を追う）
曽根村　おめでとうございます。きっと喜ばれますわ。
理子　ありがとうございます。曽根村さんすごいわ。バツイチで子育てにフルタイムのお勤め、シンパシー感じるわ。あの、又、何かお世話になると思いますが…
曽根村　何でもお申しつけください。
知佳　さあ、コーヒーを配って。（鈴木にコーヒーの盆を渡す）
曽根村　…あの…そろそろ失礼いたします。随分、御馳走になってすみません。
知佳　待って、お土産がたくさんあるわ。理子、ほら…
曽根村　あの、書斎に荷物が…（書斎へ）
知佳　どうぞ。タクシー呼ぶわね…
曽根村　お願いします。
知佳　……（家電）もしもし鎌倉交通さん…すみません、清棲ですけど…一台駅まですぐお願いします。…
…

鈴木は丸山にコーヒーを運ぶと、名刺交換をしている。
理子は、キッチンで紙袋にオードブルをつめる。

丸山　デザートは何？
知佳　特製のチェリーパイ！

MEMENTO C

丸山　待ってました！
理子　父さんのこと、あんまり甘やかさないでね。
知佳　はいはいはい！すぐに通常運転に致します。

知佳は、丸山にデザートの小皿を渡す。書斎の滋と曽根村は一瞬、抱擁する。

滋　ありがとう、感謝している。これからは、なかなか会えないね。
曽根村　……それは……先生次第。お宅、とても素敵ですね。それに優しい奥様、ドキドキしました。
滋　バレても構わないさ。年貢の収め時だ。（笑う）
曽根村　（笑う）ほんとに無責任ですね。

玄関のチャイムが鳴る。

知佳　はあい…どうぞ、早いわね・・（セキュリティの解錠ボタンを押す）

玄関から小林が現れる。派手なドレスに手袋。黄色の薔薇のアレンジを抱えて満面の笑み。と、滋、曽根村、一緒にリビングに現れる。

知佳　あの、どちらの？
小林　ごめんください。清棲先生は？…あら奥様？初めまして。私、長年、先生にお世話になりました患者の小林と申します。お祝いにお邪魔致しました。（花束を知佳に渡す）
知佳　まあお花を、ありがとうございます。
小林　まあ…先生！ご退院おめでとうございます。お久しぶり。

MEMENTO

三人の女が滋を凝視する。滋、驚いている。

滋　(独白)…狐に化かされたことがありますか？私はこの女を知らないと思った。だから訊ねました。「失礼ですが、どなたでしたか？」

小林　ま、やだわ先生ったら。私、久しぶりに帰国しましたの。

知佳　……あなた、この方は・・・ほら、あの、ほら・・・ごめんなさい。名前が出てこない。物忘れがひどいの。勿論、存じておりますわ。ピアニストの……うちにもCDございます。ごめんなさい。

小林　よくあることですわ。平凡過ぎるんです、私の名前。だから香水はいつもゲラン。ゲランの…

滋　その夜の出来事はそれだけじゃなかった。

小林　ミツコ

音楽・ベートーヴェンのピアノソナタ「熱情」三楽章冒頭。スポットの中で独り語る小林。それを呆然と眺める滋。他の人々は、ゆっくりと動いている。(曽根村は去る)

小林　…ええ、小林光子です。あれは私が三十代も終わりの頃、リサイタルの準備をしていた時だったんです。ベートーヴェンの「熱情」と、「ハンマークラヴィーア」。もう本番の一週間前でした。突然、左手の指(3，4)が言うことをきかなくなったんです。間違えるというより、こうやっていざ弾こうとすると、指は弾けたようになって勝手に別の鍵盤を叩いて…もちろん、年齢のこともありますから外科や脳ドック、他にも病院へ行きましたが、異常なし。それどころか、益々、私を無視してこの指は違う音を弾くのです。結局、私はそのリサイタルをキャンセルして、手当たり次第に病院に通ったんです。半年たてば何とかなると思って、でも、一年、二年経って……私はやはり全ての公演をキャンセルするしかなかったんです。どこ

MEMENTO C

に行っても精神科を勧められて……誰かの紹介で、先生にお会いした。先生は小さなハンマーで私の腕やあちこちをトントン叩いてこうおっしゃったの。
「ちょっと失礼、あなたはたぶん病気、それも脳神経の異常でしょう。演奏ができないのは不可抗力で、あなたのせいじゃない。指が気絶しているようなものなんです。」
やっとその時に諦めがつきました。…あら、喉が渇いた…そのワイン、頂けます？

一人でワインを飲む小林。考え込んでいる滋。観客の様になった人々、丸山はチェリーパイの皿を抱え、居眠りから目が覚める。

丸山　おおっと…（そろそろお開きだ）
鈴木　それで結局、診断は何だったんです？
小林　フォーカル・ジストニア。
滋　……演奏中に現れる不随意運動、演奏家によく見られる中枢神経の異常で完治はない…スポーツ選手ならイップスって呼ぶ。あの、どうぞこちらへ。（小林を招く）ちょっと失礼…

滋、小林の左手を診てひっくり返す。

小林　思い出しますわ。あの時もこうして……
知佳　ちっとも知りませんでしたわ。この人、病気の話はしても患者さんのことは何も言わないから。
理子　当り前よ、守秘義務があるもの。有名人ならなおさら。
滋　ジストニアに薬物治療は無かったね。しかし今、それほど異常があるようには見えませんが？
小林　だって治りましたもの。先生がロンドンでの治験をご紹介下さって。

MEMENTO

知佳　ロンドン？…

小林　ええ、ロンドンの大学病院に二か月ほど、確かメディファーマという会社の治験です。あれからもう十年。私の話を親身に聞いて下さったのは先生だけですわ。

滋　……メディファーマ……

鈴木　しかし幸運ですね。治験は、半分外れの籤を引くようなものだ。

小林　それが私は大当たり！先生にお会いできなかったら自殺していました。あれから私の手は元に戻りました。それで……ここ何年かはお会いしてなかったんです。……でも。

滋　再発……した？

小林　……（頷く）そろそろ先生にお会いしなくちゃって。今回が私のラストコンサートになりそう。

滋　……私はその…退職したばかりで…その…

鈴木　……先生もお疲れだ。そろそろ我々も失礼しようか？

小林　先生はおっしゃって下さいました。何かあったらいつでも連絡をと。もう診ては頂けないんですか？

滋　申し訳ないが……私はご覧通りだ。もしお困りなら紹介状を書きます。神経内科は、患者を振り分けるのが仕事です。骨や関節の麻痺なら整形外科に、精神的なものなら、やはり精神科に。今、詳しいことがはっきり思い出せない。ここにはカルテもないし。

小林　小林、立ち上がり、周りを見回す。

小林　どうやら招かれざる客のようですわね、私。失礼致しました。御免下さいませ。

小林、足早に出ていく。追いかけて玄関ドアを施錠する知佳。

理子は、花のアレンジからメッセージカードを引きはがすと、すばやくググる。

MEMENTO

理子　ピアニスト、小林光子、あった、これだ…1999年に突然引退……2012年に奇跡のカムバック…ドイツ・グラモフォンからCDをリリース、ユニバーサル・ジャパンと契約。

知佳　小林光子とロンドン？……（知佳、つぶやきながら戻って来る）

理子　ロンドンなら何度も行ったわよ。お土産はいつも紅茶とビスケット。

滋　どうかしたのか知佳？

知佳　違うわよ、怒ってるんじゃなくて…あの有名なピアニストを覚えていないことがどうしても気になるのよ。

滋　この四十四年間で何人患者を診たと思ってるんだ？

知佳　じゃ、忘れたの？

滋　違う。カルテさえあれば、すぐに思い出せるさ。

鈴木　まあまあ、調べれば判ることですよ。

丸山　そうかな、滋は患者たらしだからね。つもりがなくても勘違いはある。

滋　ストップ！不適切！

丸山　いやよくある話、思い込み。

滋　確かにカウンセリングで個人的な話も出るさ。人間関係、離婚や死別、みんなストレスで病気を呼ぶんだ。勘違いしないでくれ。患者は単なるクライアントだ。

知佳　あなた……だけど、そんなに割り切れるものかしら？

鈴木　論点を整理しましょう。清棲先生は、医療点数にもならない難病患者の経過観察をずっと続けていただけ。

理子　そうよ、母さんももういい加減にして。

知佳　…ごめんなさい。喧嘩するつもりはないのよ。ただ…

MEMENTO

滋　君にはわからないんだよ。患者は良くなれば来なくなる。そしたらそのカルテを開くことはない。医者が向き合うのは病気に対してで、患者の人生じゃない。

理子　そうよ、私も訴訟が終わればファイルを閉じて、次の案件に集中するわ。

滋　ようやく意見が合ったな。

知佳　もうあなたたちったら……

滋　その不審そうな顔はなんだ。

丸山　ストップ！楽しくない！やめよう！ハッピーにしてくれ。

鈴木　（理子に）そろそろ退場かな？

理子　ほんと、馬鹿馬鹿しい。（大袈裟に）あら大変、塾が終わる時間だわ。もう帰りましょ。

理子、帰り支度をする。鈴木、最後の抵抗を試みる。

鈴木　あの、最後に特別ハッピーな御報せを。理子さんと僕は……

理子　（さくっと）来月には入籍したいの、税務上の関係で。

滋　まさか、おめでたじゃないだろ？

理子　それ、セクハラよ！

滋　黄色い声を出すな。

知佳　あなた、こういう時は、宜しくお願いしますって頭を下げるものよ。

滋　理子は男を見る目がない。丸山、そうだろ？

知佳　あなた！

丸山　楽しくしよう。楽しく！ハッピーに。

知佳　鈴木さん、どうか娘を宜しくお願いします。

MEMENTO C

鈴木　どうぞお任せください。
理子　行きましょう。御馳走様でした。
鈴木　失礼します。

鈴木、理子の荷物を持つ。理子、スタスタと出ていく。

滋　今度こそしくじるな！
理子　次はクルーズ船に乗れますように！母さん、ラインするわ。

嵐の様に去っていく理子と鈴木。丸山、がっくりと座りこむ。

丸山　一体、何だって言うんだ。目出度い事ばかりなのに。君の偏桃体がどうかしてるんだ。
滋　至って正常。最高の夜だ。
知佳　…もうどうしてこんなことになるの？教えて頂戴。この人は都合の悪いことは全部忘れるの、昔から変わらないわ。
滋　変わったよ、今度こそ。
知佳　え？
滋　病院で寝ていたら、すっかり自分に自信を無くしたのさ。
丸山　こういう時の処方箋は、思い切り飲んで全部忘れて、明日になったら、何にも無かったように暮らす。それが夫婦ってもんさ。
滋　若い内ならそれでいい。だが僕たちは……なあ、知佳、君はどうする？
知佳　……片付けなくちゃ。

MEMENTO C

丸山　チェリーパイは僕が食べる。
知佳　もう三つ目よ。
丸山　食べたいんだ！知佳ちゃん、僕から言わせてもらうけどね、こんなのんきな日ってのは、実に久しぶりなんだ。
知佳　タッチャマ？
丸山　……幸子が入院したからさ。リウマチが悪化してまた手術。
知佳　もう水臭いじゃない。早く言ってくれなきゃ…
丸山　いや、幸子が病院にいる間、僕はこうして君の料理を食べて寛いで、今夜は幸子の痛がる声を聴かなくていい。
知佳　タッチャマ、飲みすぎ。

丸山、泣き上戸になっている。

丸山　駄目かい？思い出すなあ若かった頃、軽井沢のテニス合宿、君たちは夜中にボートで湖へ漕ぎ出して。僕は岸からボートの揺れる懐中電灯を眺めていた。…結婚式は軽井沢高原教会…その健やかなる時も、病める時も……喜びの時も、悲しみの時も、
滋　富める時も、貧しい時も…これを愛し、これを敬い、
知佳　その命ある限り、真心を尽くすことを誓いますか？

知佳、ハンマーを滋のおでこにあてる。

丸山　そういう風に使うもんじゃないよ。

MEMENTO C

滋　改めて、誓います……僕が悪かった。赦してくれ。
知佳　人生百年、これが続くのかしら。

音楽・転換・花々が片付けられ、人々が入れ替わる。

第三場―1・六月梅雨時・清棲家のリビングと書斎

1

雨、時々雷。一月半ほど経過している。書斎では曽根村と滋が書類整理をしている。
リビングにケアマネの藤井、手にサポーターをした知佳。理子はパンフレットを読んでいる。ハンマーが飾ってある。

知佳　(藤井の名刺を手に取って)ケアマネ―ジャーの藤井…さん…どうもご苦労さまです。
藤井　こちらこそ、宜しくお願いします。娘さんから包括支援(介護)センターにご相談頂きました。
知佳　(理子に)随分、手回しいいわね。
理子　その手、どうしたの？
知佳　ちょっと捻っただけよ。クルーズ、冬のツアーに申し込みました。
藤井　大まかな状況は伺っています。リハビリは如何ですか？
知佳　忙しいって行きたがらないんです。書類の整理ばかり。
理子　もう六週間よ。いい加減、自由に歩けるようになってもいい頃なのに。何かあってからじゃあ慌てるばかりよ。そうですわよね？
藤井　ええ。
知佳　大袈裟ね。父さんは心配ないの

MEMENTO C

理子　介護サービスの何が問題？
知佳　プライドよ。勝手が変わって主人はイライラしっぱなしで。
藤井　奥様、それはよくあることですから。入院や退職は高齢者にとって、大きなリスクになります。ではまずこちらを…
知佳　(ため息)まさにダブルパンチ…

書斎で滋と曽根村が話している。

曽根村　例の方ですが、最初の受診は一九九九年八月、受診記録がありました。整形の外来、その後に心療内科、精神科、その後、脳神経内科で当時の担当医は、確かに先生です。
滋　…治験については？
曽根村　何も。念の為、裁判の年度も調べようと思いましたが、２０１０年以降の電子カルテに私はアクセスできません。
滋　……そうか、あの裁判で教授職は降りたが…データはもともと私の…
曽根村　ですから、ご自身で請求をなすってください。
滋　……君は、このごろ僕を避けているのかい？
曽根村　避ける？どういう意味ですか？…先生こそ、逃げてませんか。
滋　逃げる？何から？君はもう僕を支えてくれないのかい？
曽根村　自分で決めてください。(冷たく笑う)それからこのCD、小林さんのですよね？ずっとかかってました、病棟で、ピアノの曲……

リビングではケアマネの説明が続いている。

MEMENTO C

藤井　……病気やケガなどで介護サービスを申請されますと、まずケアマネャーが面談をして、生活機能と身体機能で介助が必要な部分を審査します。それに主治医の意見書を元に、審査会で介護度が判定され……

藤井の説明の間に、書斎から杖をついた滋、曽根村が現れる。
藤井、声をかける。

藤井　こんにちは、清棲さん。お邪魔しています。
滋　(藤井を凝視して)……こんにちは…どこかで…会いましたか？
藤井　社会福祉協議会の藤井と申します。宜しくお願い致します。
滋　社会福祉協議会・・・
藤井　ケアマネージャーです。ご退院後に介護サービスを利用をされていないようですが、まずは仕組みをご理解頂ければご安心頂けるのでは…
滋　今、論文のまとめで忙しい。なあ？必要があれば呼ぶから。
理子　お父さんの足のことよ。不自由してるでしょ。
曽根村　私、外しましょうか？
理子　いえ、お願いします。家族だけだともめるから。
藤井　リハビリは如何ですか？
滋　……ああ、この杖のことを気にしてますね？
藤井　動作もそれほどご不自由されていないようですし、安心ですね。
滋　生憎、何か手違いのようだ。医者なら幾らでも友人がおります。

MEMENTO

知佳　娘が勝手に相談したんです。今日はもう…ちょっと。
曽根村　奥様、お話だけでも聞かれては。私、以前、母の介護申請ですごく苦労したんです。もし、転ばれたりしたらすぐに奥様はサポートが必要になります。
滋　そうなのか？
藤井　今、介護判定は二か月待ちです。今日は、それほどお手間をとらせませんので。
知佳　あなた、曽根村さんの言うとおりかも。お話だけでも、ね？
滋　仕方ないな……
理子　お父さん、何やってんの？

滋は、不自由そうにキッチンからビールを持って来る。その態度は、ひどく不遜に見える。

滋　飲みながらでいいかね？
知佳　あなた…
藤井　結構ですよ。まず確認をさせてください。ご入院はいつからでしたか？
滋　……二月だ。
知佳　二月十日でした。
藤井　ご本人から伺っても宜しいですか？診断は如何でした？
滋　……大腿骨骨折と他には…胸部打撲、それから右足の脱臼。
藤井　かなりひどい転倒ですね。頭を打ったりはされませんでしたか？
滋　していない。
知佳　病棟管理で当直が続いたのよね？
藤井　かなりお疲れだったんですね。CT などの検査は？

MEMENTO C

滋　私は脳神経科の専門医だ。要点だけ話してくれればいい。

藤井　失礼しました。こちらにお座りになって聞いて頂けますか？

理子　お父さん、お願い。

滋がソファに座り、皆も座る。

藤井　あくまで可能性としてですが、清棲さんの現在考えられる介護度は要支援2、利用できるサービスはデイケアへの通所や、ご自宅で介護予防のためのケアを受けられます。

滋　さっきから必要ないと何度も言ってるんだ。

藤井　地域包括支援センターを上手に活用すれば、早い段階で介護予防も始められます。ともかく判定が必用です。

滋　判定、誰を判定するんだ？私は医師だ。

音楽が入り、それぞれの心の声が流れる。

理子　(録音)……そう、子どもが居なくても、介護サービスは年老いた親をみてくれる素晴らしい制度。差し伸べられる手はある。

藤井　(録音)こうした判定を拒む方もいますし、他人に頼ることは迷惑と考え、相談しないケースも多くみられます。その為、近所の方や知人の相談でも我々は動きます。

滋　私は医者なんだ。君らにそんなことを言われる筋合いはない。

滋はだんだん昂って歩き回るが、誰も滋の様子には反応しない。

音楽、滋の苛立ちに伴って高まる。

MEMENTO

理子　親の介護で自分の人生を諦めるなんて馬鹿げている。少なくとも私は…

藤井　まず体の状況、歩行ができるか、排泄、入浴が一人で問題なくできるか、今日は何日で季節はいつか、自分は誰なのか？（フリーズ）

皆、フリーズする。滋、ハンマーを手に藤井に話しかける。

滋　神経内科の患者は、脳卒中に認知症、パーキンソン病、面倒で診断が難しい病気ばかり。患者は「何を馬鹿なことを」って顔でこっちを見る。例えば…さ、掌を天井にして、目をつぶって。今度は掌を裏返して…狐、指でつくれますか？（作ってみせる）じゃあ、次は両手で。次は人差し指を出して、私の指とあなたの鼻を交互に指してください。繰り返して、もっと早く！もっともっと…

皆、滋の指示通りに動く。

滋　私のどこに問題があるというんだ。君たち介護士に何かを命令される言われはない！何度でもいう。判定なんかされるものか。さあ、君たち、百から七を順に引きなさい！

ピアノの鍵盤の打撃音・暗転

滋（録音）　何故か、その後のことを覚えていない。猛烈な感情の嵐が、冷たい汗と疲労感を背中に残し、気が付くと皆が居なくなっていた。

MEMENTO C

第三場-2・同日夕方・清棲家のリビング

ビールの空き缶を手にボンヤリとしている滋。知佳がキッチンから雑巾を持って現れ、テーブルを拭く。ため息をついてまじまじと滋を見る。

知佳　……もう気が済んだでしょ。

滋　え？みんなどうした？（ビールの空き缶をみつめる）

知佳　何言ってるのよ……あなたったらあんなに怒って……理子は泣いてたわ。

滋　僕が？どうしたって？

知佳　びっくりしてたわケアマネさん。二度と来ないかも。

滋　なぜ？

知佳　あんなあなたを見たの初めて。

滋　興奮だけが残っている…ドーパミンの暴走…だが無性に可笑しい。可笑しくてたまらない。（笑いだす）

知佳　どうかして？……大丈夫？

滋　曽根村君は？

知佳　とっくに帰ったわ。申し訳ないことしたわ。少し御礼を包んだから。

滋　有難う…飲み過ぎたのかな。…知佳の顔が、何かを責めているように見える。

知佳、立ち上がって散乱している資料を拾う。

知佳　…あなたは頑張った。病院も勤め上げた。もう十分…何が足りないの？

滋　何だろう……痛むんだよ、このへんが。

MEMENTO

知佳　どこ？

滋　（心に）ぱっくりあいた傷がある。勿論、君に感謝はしてるよ。テニスの混合ダブルスが四十年も続いた。

知佳　私、あなたとペアを組んだ。一緒にゲームをした、それだけで満足……試合に勝てなくても。

滋　僕は……何かが、足りない。

知佳　あなた……（独白）知らない顔でした…私の知らない滋の顔。

溶暗

第三場―3・同日・深夜の3時過ぎ・清棲家のリビング

夜となる。救急車のサイレン音、ナースコール、ERの無線連絡が聞こえる。やがてそれらがピアノ曲と入れ替わる。

無線の声「横浜市消防局より五六歳女性のER受け入れ要請です。入浴時にめまい、転倒による頭部打撲、脳梗塞の疑いあり。まもなく救急車到着予定。ERコーディネーターより脳神経内科での検査処置をお願いします・」

「一次救急病院より、オーバー・トリアージにて、第二次重症患者受け入れ要請あり、速やかに状況を…」

滋　（録音）夢を見ているとき、大脳は活動していて体は眠っている。その状態をレム睡眠と呼び、ストーリーのある夢を覚えているのはレム睡眠から目覚めた場合だといわれる。夢は人の行動に影響を及ぼし、意識の下の自分を知らしめることもある。病院の夜は、午後九時の回診の後にも、ひっきりなしに意識障害、脳梗塞、脳出血の患者が運び込まれ、私はコール音のあいだに夢を貪った。

MEMENTO C

声の間にパジャマ姿の滋が現れ、白衣をまとう。ベランダからすっと、女(小林)が現れる。

滋　気が付くとそこに彼女がいる。

小林　はーい！

滋　私はどこかで見た顔だという親近感を覚える。ハロー！

小林　ご機嫌いかが？あら、ずいぶん顔色が悪いわ。どうしたの？

滋　親しい人だと分かる。この場合、頼った間隔はこの辺り(後頭部・海馬)に植え付けられた親近感、具体的なエピソードはまだ思い出せない。

小林　先生、お久しぶり。一年がとても早いわ。

滋　やはり患者だ、しかも私を信頼している。と僕は快い感情を受け取り、「調子は如何ですか？」

小林　良くないわ……相変わらずよ。

滋　それはお困りでしょう。最近の受診はいつだったか？病歴はどこだ？早くカルテを！　勿論、誰も答えない。

小林　私みたいな患者は、不安や完璧主義が原因だと言ったでしょ。この手、他人の指みたい。

滋　ここでエピソード記憶がフル回転して、彼女が難病患者の一人だったことを思いだす。「今、指は思い通りに動きますか？」

小林はソファで自分の身体を愛撫する。

小林　指がバラバラに壊れていく感じ。自分を自分で思い通りに操るって難しいわ…

滋　何故か制御できない。夢に多い暴走だ……。あなた、無駄に美しいね。

小林　先生が悪いのよ。私じゃないの。

MEMENTO

滋　本来ならば、私の前頭葉にある制御装置が、このような逸脱をストップしてくれる。しかし、心の絶対的自由っていうのは、心の中で何を考えても、実際に行動に移さない限り許されるということ。例えば麻薬を吸いたいと思っても、大抵は前頭葉がノーと言う。しかし夢では…全くそれが…

小林　何も言わないで。

二人は抱き合う。

滋　それで、君は誰？

小林　名前なんてどうせ忘れてしまうもの。

滋　じゃあ何と呼べばいい？

小林　……マルガレーテ、グレートヒェン、ベアトリーチェ…あなたの頭の中の不滅の恋人。

滋　そうだ……僕に奇跡を起こしてくれる。

小林　私に奇跡を起こしたのは先生よ。

滋　そして体温と血圧の上昇、ドーパミンが降り注ぐ、至福の瞬間。

小林　ああ、幸せ。死にそう！

滋　生きているということは死に向かっていること。

小林　そう、息を吸って吐いて…

滋　吸って吐いて…循環しながら…

小林　吸って吐いて…死んでいく。あなたがどれほど抗っても。

滋　神経は正直だ。脳は嘘をつく。愛を得るために。

小林　愛ってどこで感じるの？心？身体？それとも命？

滋　……命。破滅の快楽に踊りながら燃えていく虫たち。

MEMENTO C

小林　そうよ、そして死は必ずあなたを手に入れる。

小林は悪戯のように鼻を指で押して遠ざけ笑う。

小林　鼻に触ってください。それから私の指に触って、それを繰り返して、もっと早く早く……もっと、もっと！

滋　もっとやさしく……触れてくれ。やさしく……音が聞こえる。私をここから引き離そうとする音……

セキュリティのブザーが聞こえ、小林は消えていく。やがて、知佳が現れる。

知佳　どうしたの？！あなた？あなた！

滋　急患だ。

知佳　寝ぼけてるの？まだ四時よ。

滋　・・・患者だ。そこにいる。ほら。

知佳、家の中を窺う。

知佳　誰もいないわ。

滋　オン・コールだ。

知佳　玄関のセキュリティーよ。…さあ、ベッドに戻って。

滋　当直なんだ。行かなくちゃ。

知佳　ちょっとまって、どこへ行くの？あなたしっかりして！

滋　行くんだ。行かなくては。

MEMENTO

知佳　やめて！

滋、知佳を振り払おうとして自分が転ぶ。

滋　痛い…痛い…うう……

知佳　ねえ！しっかりして…

滋、背を丸めて震えている。

知佳、横たわる滋を抱きかかえようとしてギョッとなる。

知佳　…驚いたことに、夫の背中も腰もべったりと濡れていて……匂いが…。

滋　知佳……どうなってるんだ。

知佳　あなた、大丈夫よ。……さ、着替えましょう。……アンモニア臭でした。これが始まりだったんです。

音楽・暗転

MEMENTO C

第四場　2018年　7月　成田空港・国際便到着フロア

一か月後・理子と鈴木の会話
ロンドン出張から帰国した鈴木がキャリーケースを持っている。

理子　おかえりなさい。
鈴木　ただいま。
理子　要支援2ですって。今朝、判定が出たのよ。
鈴木　え？
理子　父の介護申請よ。こないだラインしたでしょ。
鈴木　…ごめん。細かいとこまだ。でもこれで介護サービスが始まるなら一安心。
理子　うん……出張中に、ドメスティックな話は制限してほしいものよね。既読が着けばそれでいいの。
鈴木　どうやら僕の帰りを待ち構えていたって雰囲気だね？…今回は最高のプロモーションになりそうだ。
理子　おめでとう……益々忙しくなりそうね。
鈴木　明後日まで休暇もとれた。君の為の時間だ。
理子　嬉しいわ……ちょっと限界だったの。こないだなんて医局でスマホを探し回って。本当に恥ずかしかったわ。それなのに、懲りずにまた行って今度は財布……丸山先生に迎えに行ってもらったのよ。
鈴木　名残惜しいんだろうね。暇なだけさ。

理子、画像写真の入った封筒を鈴木に渡す。

鈴木　これは？

MEMENTO C

理子　三年前の父さんのCTよ。今度、丸山先生に頼んで、脳ドッグに行かせるから。あなた、それ持って付き添ってくれない？

鈴木　お義母さんはどう思ってる？

理子　あの人はリハビリが終わればって楽観してるわ。

鈴木　だったら君はあれこれ言う必要ないよ。年をとればみんなあんなものさ。

理子　セカンドオピニオンが欲しいのよ。この先の不安を一つずつ消していきたいの。

鈴木　楽しいことだけ考えたほうがいい。君は良い家庭に育ち、大学院を出て留学し、弁護士になった。それは家族のお陰じゃないのかい？

理子　勿論そうだけど、今は娘たちのことが第一、それに私のキャリアはまだこれから。

鈴木　その野心に惚れ惚れするよ……言わなかったっけ？僕の祖母が認知症を長く患ったこと。

理子　聞いたかしら……お祖母さん、深刻だったの？

鈴木　若かったよ、六十過ぎ。迷子になって気がついた。よく警察の御厄介になったね。（苦笑）さあ、今から食事に行ってシャンパンを開けて、楽しいことを考えよう。

理子　待って……調べてくれた？ロンドンの治験のこと…。

鈴木　ああ、関係先にあたってみた。でも何故そんなことを今頃？―

理子　同じ時期なの、治承医大の医療事故…

鈴木　それがロンドンと何の関係が？あの時、助手は不起訴、先生は責任とって教授を辞めた。それで終わり。

理子　ひょっとしたらあれは…父さんのミスだったのかもしれない。

雨と落雷・溶暗

無断転載

第五場　２０１８年８月のある日の午後・清棲家リビング

夏・夕立ち。

介護士のジャニスがバスタオルをもち、滋が書類を散乱させている。

滋　それで？君は今日、何をしに来たんだい？

ジャニス　ドクター、入浴の介助です。時間があればリハビリも。

滋　結構だ、もう帰ってくれ。

ジャニス　先週も入浴拒否しました。今週は必ず入ります。（崩れた書類を拾う）

滋　余計なお世話だよ、それに触るな！（神経質な声になるが我に返る）…大丈夫だ…ところで君は看護師？

ジャニス　介護士のジャニス、佐藤・ジャニス・ミヨンです。

滋　ご苦労様。サンキュー、何か困ったことがあったら相談するといい。知佳はどこかな？

ジャニス　ドクター、奥さん腰が痛いから病院に行ってる。清潔、大事です。リハビリもっと大事。

滋　分かった分かった……足が治ったらね、復帰するつもりなんだ。

ジャニス　復帰？

滋　ああ。どこかの病院でまたドクターをするのさ。論文も書かなきゃ。

ジャニス　Dreams come true!夢を現実、ジツゲン。ドクターは何を治すんですか？

滋　神経、neurologyニューロロジーさ。脳の命令を体に伝える道筋。

ジャニス　ニューロロジーのドクター、It's time to 入浴。早く着替えましょう。患者さん、待ってますよ。

ジャニス、滋を立ち上がらせる。

WEMITEC

滋　待ってくれ。頭では分かっている。だが気が進まない。ちょっと前までは、私が患者を診て回っていたのに、それが今では君に服をはぎ取られようとしている。

ジャニス　何か心配がありますか？

滋　携帯が見つからない。きっと盗まれたんだ。

ジャニス　それは大変。でもよくある事。（書類の合間のスマホに気づく）

滋　そうか、よくあるのか。

ジャニス　日本の携帯はスペシャル。歩いてどこかへ行きます。迷子になる。

滋　まさか？

ジャニス　本当です。一緒に探しましょう。

滋　……有難う。君は優しいね。怒らないもの。

ジャニス　例えば…ほら！

ジャニスが書類の間から見つけたふりをする。

滋　すごい。どうして見つけた？

ジャニス　マジックです。スペシャルなマジック。

滋　有難う。（スマホを受け取り）おっと…まずい。

ジャニス　それは、後にしましょう。まずは入浴！

滋　着信とメールが。大事な……（かけて）もしもし、出ない…（また掛ける）

ジャニス　ドクター……私はあと三十五分しかいられない。どうしよう。

滋　もしもし、僕だ。曽根村君、連絡付かなくて悪か……切られた。

ジャニス　皆さん、忙しい。お仕事中です。入浴を…

MEMENTO C

滋　何かおかしい…大変だ。
ジャニス　もうどうしよう。(ケアマネに電話をかける)ジャニスです。また入浴拒否に…すみません。…
滋　メッセージ…宣伝、宣伝…これは…

滋、電話をかける。途端にこぼれる女性の声(声は滋に関係なくどんどん聞こえてくる)

声　(録音)せんせーい！お元気ですか？
滋　ああ僕だ。元気だ。変わりないが、最近……退職したんだ。
声　(録音)ほんとですか―お疲れ様です！次はどこですか？
滋　(録音)いや……それで君は最近、どうしているの？研究？
声　今はアンチセンス核酸、ペプチドも。新しい論文、もうすぐ査読の結果が…先生、よかったら学会のついでに遊びに来ません？
滋　おめでとう、おめでとう！…
声　(録音)何もかも先生のお陰です！先生のご指導と温情とご協力とハラスメントの全てに感謝申し上げます！心よりお早目のご冥福をお祈り…(声はどんどん早くなり、突如、途切れる)
滋　君は誰？

スマホを手に呆然としている滋。

ジャニス　ドクター、さ、行きますよ。
滋　もう邪魔しないでくれ！

MEMENTO

滋は、ジャニスを突き飛ばす。
暗転の中、声が聞こえる。

知佳　(録音)本当に申し訳ありません。
村田　(録音)大丈夫ですよ。次回は私もジャニスさんに同行します。またご連絡致します。

明転すると、丸山は怒って歩き回っている。
ソファには、心、ここにあらずというぼんやりとした滋の姿。

滋　何かあったのか?
丸山　こんな事は一時的なんだ。君の偏桃体がどうかしてるのさ。深呼吸して、ほら。
滋　自分がどうなっているか分からない・・・いや、分かってる、本当のところは。
丸山　君は骨が折れただけだろ?何をそんなにうろたえる。うちの幸子はもう歩けない。また再手術だ。整形外科医が妻のリウマチを治せないなんて、俺は無能だよ。
滋　力になれなくてつらい。

知佳は散らかった書類を片付けている。

知佳　……滋、あなたを支えてるつもりだったのよ、私は…
滋　感謝してるさ。いつもそう言ってるだろ。
知佳　言ってるだけよ。本当はどうしたいの?何かあるんでしょ?言ってよ!
滋　ないさ!(知佳に手をふりあげる)

MEMENTO

丸山　やめなさい！

悲鳴をあげる知佳、振り上げた滋の手を押さえる丸山。

丸山　……君は年をとっていきなりすることがなくなった。それだけさ。

滋　……復帰したい。

知佳　ええ？？

滋　デイサービスに通うなんて真っ平だ。退職した途端に、高齢者、高齢者って言われる気持ちが分かるか？

知佳、無言でお茶を片付け始める。

丸山　なあ滋。今度、俺、脳ドック受けるんだ。一緒に受けにいかないか？

滋　全て異常なし。

丸山　一緒に行ってくれよ。俺、不安なんだ。幸子を看取れるかどうか。君にしかこんなことは言えない。だから一緒に、な？頼む、滋。

知佳と丸山がじっと滋を見る。

滋　（独白）不安は確かにそこに横たわっている。だが不安に背をむけ、焦りに身を任せるのは、堪らない快楽なんです。

第六場　9月　清棲家のリビングと書斎

MEMENTO C

三週間後の午後3時過ぎ。知佳、鈴木、ケアマネ藤井、看護師の村田らがリビングにいる。
鈴木は大きな封筒を持っている。知佳は疲れきって感情が薄れたような表情をして頭を下げる。

知佳　先日は本当に申し訳ありませんでした。
藤井　もうお気になさらず。
村田　訪問看護師の村田と申します。(鈴木に)
鈴木　初めまして、鈴木と申します。身内の者で製薬会社に勤めております。
知佳　娘が体調を崩したので今日は代わりに。村田さんには本当に助けて頂いて…
鈴木　宜しくお願いします。あの…どこかで…?
村田　したかもしれませんね。病棟勤務の経験もありますから。

鈴木、思い出そうとする。

藤井　早速ですが…まもなく骨折のリハビリは終了します。それで介護の再審査が必要になります。あの、滋さんは?
知佳　それが忙しいとかで…(書斎を伺う)この頃、リハビリにも慣れて杖も要らないし、退職で混乱していただけだと思います。
村田　先日、研究のことを色々話されてました。
鈴木　先生は、復帰されてもおかしくない。こないだも医学雑誌のオーダーをされて…

チャイムの音。「こんにちは」(録音)と言う声

MEMENTO

知佳　（モニターを見て開錠する）はい…どうぞ。

曽根村が現れる。微妙な顔で一同に会釈し、そのまま書斎へ向かっていく。知佳は、曽根村の背をうんざりした顔で見る。

知佳　……残務整理だそうで……早く終わってくれないかしら。書類で家が埋まりそう。

村田　治承医大の方？

知佳　ええ……あの、再審査のことですけど…主人も、来月には六九ですから不安が無いと言えば嘘になりますが、…脚さえ治れば、落ち着いて静かに暮らす方がいいんじゃないかって…他所の方に来て頂くよりも。

鈴木　そうそう、来月は古稀祝いですね。僕がレストランを予約しましょう。

書斎に照明が入る。滋と曽根村。

曽根村　先日、奥様から「ご迷惑料」っていうのを送って頂きましたけど。

滋　そうかい。君が僕の仕事を手伝ってくれているからね。

曽根村　……娘さんからは、医局に問合せが来てますけど。

滋　え？

曽根村　きっと…先生の悪事が暴露されるんですよ。

滋　君、何を云うんだ！失礼じゃないか。僕は真面目にこうして…

曽根村　冗談ですよ…どうしたんですか？そんなに怒って……あ、あのピアニストのこと、セカンドオピニオン外来に記録がありました。確かに先生が診断書を書いています。八年前から五回、しかも英文の。

MEMENTO

滋　そうか…

曽根村　何か、特別な事情があったんですか？

滋　どうだろう……少なくとも僕がそうしなくちゃいかんと思ったんだろうな。

曽根村　製薬会社が治験参加者を救わないからって先生が責任を取る必要はないと思いますけど。

滋　しかし…責任というのは、一生、ついてまわる。死んでもね。

曽根村　じゃあ先生は、私のことは？

滋　君のこと？……ああ……ありがとう。君だけだ、こうやって助けてくれるのは…

曽根村　（ため息）……来月、最後のお食事でもします？先生のバースディのお祝いも。

滋　そうか、君の誕生祝いには何が欲しい？

曽根村　え？（まともな返事を期待していたら、自分の誕生日を忘れている滋に愕然となる）

滋　遠慮しないで。君、いくつになるの？

照明、リビングに戻る。鈴木が封筒を知佳に渡す。

知佳　何これ？

鈴木　脳ドックの結果です。

知佳　それなら丸山先生が心配ないからって。こないだ問診もスラスラ言ってたし…混乱は誰にもつきものだからって。

村田　専門医にかかられたんですね？

鈴木　ええ。妻が念の為にセカンドオピニオンをと。

滋と曽根村が降りてくる。

MEMENTO

曽根村　どうも、お邪魔しました。
滋　お疲れさま。
曽根村　奥様、これで全部終わりました。ご心配ありがとうございます。
鈴木　先生、お邪魔してます！こないだ学会で九大の先生方に会いまして、清棲先生に、また宜しくと……
滋　有難う…昔、治験に失敗したミオパチーの薬が復活するんだ。彼女がデータを届けてくれた。
曽根村　えっ？（そんな馬鹿な……）
滋　本来なら病院で治療の先頭に立っていたはずなんだ。私は陥れられたのさ。（曽根村に）君も知ってるだろ？
曽根村　いえ……失礼します。

曽根村は、はっとなって村田を凝視し、帰っていく。一同、不穏な空気になる。

滋　いくら非常勤になったとはいえ、私なりの仕事をしていた。そもそも臨床データが無ければ、何も生まれないからね。そうだろう（鈴木に）……
村田　おっしゃる通りです。

滋、村田を目にとめる。

滋　見かけないな。君は誰？誰の許しを得てここに居る？
知佳　あなた、そんな失礼よ！ごめんなさい。真に受けないで…

MEMENTO

村田、滋を凝視する。

滋　明日は、確か来客がある。資料をまとめないといけない。
知佳　明日？誰も来るはずないわ。
鈴木　明日は確か、神経治療学会が幕張であります。そちらの関係では？
滋　……そうだったかな…
鈴木　宜しければお供しますよ。
滋　そうか、そうか。ありがとう。
知佳　一体、何を話してるの？さっぱり分からないわ
鈴木　（意を決して）清棲先生、折り入ってお願いがあります。この画像の、セカンドオピニオンをお願いしたいのです。脳神経のスペシャリストに所見を頂ければと。こちらで……

滋、ソファに座る。鈴木、書類を出す。

滋　どれ見せて……スマート藪原脳ドック？聞いたことあるな…。診断書は？
鈴木　どうぞ。（渡す）
滋　ありがとう。ＭＭＳＥ簡易認知機能テスト 29 点、長谷川式スケール 30 点、パーフェクトじゃないか。画像。
鈴木　はいここに。（渡す）

滋、素早く封筒を受け取ると、慣れた手つきで中を改める。

滋　ちょっと暗いね…

MEMENTO C

鈴木、ペンライトを取り出して画像の裏から照らす

滋　うん、頭部MRI……脳の血腫、腫瘍、梗塞痕、出血、見られず。（もう一枚を見て）萎縮、脳室拡大は…（二枚の画像を比べ、画像の名前を確認し、一瞬うろたえ、画像をテーブルに置く。。）

滋　諸君、異常なし。ノープロブレム。これ誰のだね？

村田、診断書を素早く取って確認する。

村田　被験者、清棲滋、満六八歳、十一カ月……

知佳　え？

藤井　ちょっと待ってください！！

村田　いえ、一度専門医に相談が必用です！

滋　専門医ならここにいる。どうしたんだ？

知佳　もう……良かった……アハハハ！あなたがあんまり変だから。タッチャマもすごい心配して…

滋　理子もアルツハイマーだって言うんだろ？そりゃ少しは疑ったさ。

知佳　アハハハ！馬鹿みたい！ああ、よかった。

滋　君にも解説しておこう。（村田に）アルツハイマー型認知症はね、物忘れがひどくなる。ほかに感情の変わりやすさ、スケジュールを間違え、迷子になったり。最近、僕は確かに携帯を無くし予定も間違えるが、病的ではないことが自分でも分る。なにより画像で見る限り異常はない。何も変わっていない。

村田　……そんな馬鹿な…清棲先生、あなたはまた過ちを…

藤井　ストップ！村田さん！

MEMENTO C

鈴木は、村田を不思議そうに見る。

知佳　あー良かった！本当に安心したわ。

滋　そう、足が治ればクルーズにも行ける。

知佳　そうよ、クルーズに行くの。世界一周よー！介護の再審査は必要ありません。

ケアマネ、村田は去る。

鈴木、落ちている滋の携帯を拾い、ソファに置く。

滋　私は私を否定する情報を認めたくなかった。病人は藁にもすがる思いなんです。

滋の携帯が鳴って切れる。それを見てまたテーブルに置く滋。

滋　ちょっと出かけてくるよ。

知佳　ええ？もう夕方よ。

滋　食事に誘われた。着替えなくちゃ。君、今夜は先に寝ていてくれ。

知佳　でも……あなた……

滋　髭も剃ったほうがいいかな？　靴も出しといてくれ。

知佳　待って……あなたちょっと…電話…

MEMENTO C

滋、奥へ着替えの為にひっこむ。知佳は、理子に連絡しようと思うが逡巡している。滋の携帯に着信する。知佳、出ようとして切れる。

滋　（録音・オフ）おーい手伝ってくれ。
知佳　（出て来て）おい急いでくれよ。タクシーも呼ばなきゃね。
　あなた……無理よ…まだ足も…

滋はリビングに戻ってくると、スマホをとり暗証番号を打ち込む。これを繰り返す。

知佳　誰に会いに行くのかそれだけ教えて。
滋　君の知らない人だ。
知佳　どこのどういう誰？
滋　聴いてどうする？詮索しないでくれ。
知佳　別に詮索じゃないわ。何かあったらと思って…
滋　ちょっと、黙ってくれないか！！メールが読めない。（スマホをいじる）
知佳　パスワードは誕生日じゃなかった？
滋　そうか…
知佳　１００８よ。
滋　ありがとう……まさか…
知佳　見てないわよ。そんなことするもんですか。だから、あなたから教えて。誰に会いにいくのか？
滋　君に言う必要はない
知佳　あの人？まさか……あの……ピアノの…

MEMENTO C

滋　誰だ？
知佳　もう、騙されないわ！！
滋　やめろ！放せ。
知佳　あなた、やっぱりおかしいわ……（靴下が左右別々のものを履いているのに気が付く）
滋　おかしくなんかない。

滋、鼻歌を歌いながらネクタイを締めようとする。しかし、何度やってもうまくいかない。

知佳　ねえ……あなた。
滋　うるさい！
知佳　ねえ、ちょっと……
滋　黙れ！
知佳　……清棲先生、靴下が変よ。そんな恰好で行ったら笑われるわ。

滋、足元をみる。靴下を片方、投げつける。知佳は更に驚いて滋の様子を観察する。
滋は、ネクタイをいじっているがやがて、子どものようにつぶやく。

滋　知佳……知佳……結んで…できない……結んでくれ。
知佳　え？

知佳は逡巡するが、ネクタイを結び、身支度をさせる。

MEMENTO C

知佳　…立って…（ズボンの足元を直す）……清棲先生、とっても素敵よ。行ってらっしゃい。

滋、外へと出ていく。

知佳　ボンボヤージュ……

知佳、送り出して施錠する。

一幕・終わり

MEMENTO C

第二幕

第七場　二〇一八年の冬（十一月初め・二カ月後）・介護ステーションの会議室

藤井、村田、ジャニスがテレビ会議でカンファレンスをしている。三人以外は音声のみ。

センター（声）地域包括支援センター・寺田です。三カ月前に介護サービスを停止した清棲滋さんですが、その後、娘さんからセンターに相談が寄せられ、情報共有と当面の支援計画を検討するため、コアメンバー・ミーティングを行います。

保健師　保健師の桜井です。

藤井　前回担当ケアマネの藤井です。

村田　前回担当の看護師村田です。

ジャニス　前回担当デイサービス介護士の佐藤です。

センター　八月以降、二度、横浜市消防が清棲滋さんを路上で保護、滋さんが単独で外出し、玄関を施錠されたまま自宅に戻れず、迷ってしまったということです。いずれも同居家族である妻・知佳さんは具合が悪く寝ていたということで、リスク・アセスメント・シートはイエローです。

保健師　その後の訪問では知佳さんは介護サービスを拒否されました。

藤井　こちらから電話で様子を伺った時も、お二人だけで大丈夫ということでしたが…知佳さんが親族の介入を拒んでいる様子です。

ジャニス　ドクター、いえ滋さんの徘徊は認知症的症状ではありませんか？

保健師　そういった要因も考えられますが、退院時には日常動作に問題なく自立ということでした。

ジャニス　良かったー。

村田　こちらで把握している状況は、滋さんは半年前に脳ドックを受診したものの、確定診断はつかず。

MEMENTO C

センター　今の段階では、それほど危険性も高くないと判断しました。センターでは今後、観察継続をデイサービスに引き継ぎたいと思います。

藤井　ではこちらで観察を引き取り、近日中に訪問します。

保健師　宜しくお願いします。

センター　では、二〇一八年十一月五日、午前11時45分、コアミーティングを終了します。

三人　お疲れ様でした。

パソコンをのぞき込んでいた三人、やれやれという顔。

ジャニス　ほらほら、やっぱり、大変なことになってる。

藤井　こないだのほら、タワマンに閉じこもった老々介護の夫婦。扉を開けてもらうだけで一月かかったじゃない。介護されるのを恥だと思う人、多いのよ。

ジャニス　日本人はプライド、高い。介護士の言うこと聞きません。私がフィリピン人だから？…言ってもだめ。何故ですか？

藤井　それは私も同じよ。ケアをご機嫌とりだと思ってる人、ほとんどよ。自分の機嫌は自分で取って下さいって、いつも思うわよ。ケア労働者は下に扱われるけど、いつまでもこんなじゃ、将来は誰も働いてくれなくなるわ。

村田　困ったことさ。投薬よりも介護やケアの方が有効な場合もあるのに。

藤井　清棲さんちもそこにギャップがあるのよ。コミュニケーションとって心を開いてもらうしかないわ。それではジャニス、さっそく清棲さんに電話で訪問を伝えて頂戴。刺激しないように。

ジャニス　OK、分かりました。奥さん、気の毒。これはミゼラブルって意味。

村田　参ったな。よろしく頼むよ。

MEMENTO

ジャニス、去る。

藤井　村田さん一つ、気になることがあって。
村田　なんでしょう？
藤井　（モニターを示し）これ、２０１０年、治承医大……当直医が点滴ミス……この不起訴になった医師はまさか清棲先生？……
村田　（画面を見る）…違いますよ。年齢三十六歳、ほら。
藤井　そうですよね…まさか、まさかですよね。
村田　その不起訴になった医師は、私です。
藤井　え？ちょっと……早く言ってくれないと……。
村田　隠していたわけではありませんが、はっきりさせたほうがいい。
藤井　……頭が付いて行けません。村田さん、医師を辞められたとは聞いてましたけど…
村田　昔、私は上司の指示を鵜呑みにして、患者を致命的な状態にしてしまった。
藤井　ちょっと待って……じゃ清棲先生は…
村田　その上司です。患者さんとは民事で和解できましたが、充分、償えたわけじゃない。
藤井　じゃあ、再会してびっくりしたでしょう？
村田　…ところが彼は、私を認識しなかった。これ以上のショックはありません。
藤井　そうでしたか……村田さんはこの件に関わらないほうが…
村田　…ひょっとしたら私が試されているのかもしれません。患者の為に何ができるのか…藤井さんの診たては先生は？

MEMENTO C

藤井　悪ければ、あと三年ほどで混乱も収まります。それまでご家族をサポートするのが私の仕事です。当人以上に。

村田　最後まで見守りたいですが、無理ならすぐに撤退します。

藤井　くれぐれも気を付けて下さい。

暗転・音楽

第八場　２０１８年十二月　日中　清棲家のリビング

知佳が寒そうに座って、保健所からの「お便り」を読んでいる。リビングは、いたるところにタオルが落ちている。ソファにもバスタオルが積み重なっている。

知佳　（録音）・介護する家族など、本人と距離の近い人に対して、被害感や攻撃性などが向けられやすい傾向があります。そのため、もともとは熱心な介護者でも、くり返される負担が過剰になると、つい、不適切な行為をおこなう状況まで追いつめられ……（お便りをぐしゃぐしゃにする）……

ものすごい勢いで理子が現れる。

理子　どういうことなのよ！鍵もかけないで？

知佳　いきなり入ってきて何の用？

理子　見守りサービス解約って…カメラも外して…

知佳　うるさいから全部、とっぱらってスッキリ。

理子　どうしてそう極端なのよ。父さん、管理しなくちゃ。

MEMENTO C

知佳　お前に管理される謂れはないわよ。
理子　それなら成年後見人を頼む？本人の判断能力が著しく低下している場合、家庭裁判所に申し立てるの。診断書は丸山先生に頼めば…
知佳　もうこれ以上、世間に顔向けできないことはよして。
理子　……こないだ、ネグレクトじゃないかって通報されたのよ。
知佳　父さんは何とかなるから大丈夫、大丈夫なの。
理子　茹でガエルね、四十年も一緒にいて、浮気されても分からない。
知佳　……あんたいつから浮気調査が専門になったの？
理子　これは別料金だわ。このご時世よ、父さん、セクハラで首にならなくてほんとによかった。
知佳　セクハラって何？何が言いたいの？
理子　母さんみたいな古臭い女がいるから、男が何しても許されちゃうのよ。父さんは、しれっとやらかしてたのよ。社会の毒！
知佳　そんな重箱の隅をつつくようなことをしてどうするの。世間が喜ぶだけ、いい笑い者よ。
理子　じゃあ、前から分かってたの？不適切な…
知佳　もう時効よ！済んだことよ。お前だって、家族でしょ？
理子　その前に私は弁護士なのよ！それに母さん、あなたも被害者よ。
知佳　薄情者！馬鹿娘！出ていけ！二度とこの家の敷居をまたぐな！
理子　じゃ、そうする。

理子、出ていく。
パジャマにセーター、ガウン、ちぐはぐなコーディネートの滋が寒そうに現れる。

MEMENTO C

滋　知佳、知佳……何か動物の声がしなかったかね？
知佳　何？今、メスザルを追い払ったのよ。やっと起きたの？
滋　もう夕方かい？寒いんだ。
知佳　天気が悪いからよ。寒かったらたくさん服を着て。もう冬なのよ。
滋　お茶を入れてくれ。おいしいお茶を。
知佳　そうね、それがいいわ。

知佳、湯を沸かしにいく。滋、落ちている介護施設の案内を拾って読もうとするが逆さ。

滋　これはなんだ？
知佳　徳養だっけ？老人ホームに入ったらって。あなたどうする？
滋　僕はどこも悪くない。
知佳　どうかしら。最近、タッチャマまで来なくなった。
滋　あいつ、きっと僕のこと煙たがっているのさ。
知佳　ストップ。楽しいことだけ話しましょう。
滋　…さっきそこに誰かがいた。
知佳　誰も居ない。
滋　居たさ。パーキンソンのあの患者、それからトゥレット症候群に、
知佳　誰も居ないの。何度言ったらわかるのよ？
滋　居たさ、廊下にずらっと。ミオパチー、ALS、多発性硬化症、てんかん、アルツハイマーに…ハンチントン舞踏病。
知佳　よく覚えてました。さあ、お茶を飲みましょう。はい。

MEMENTO C

知佳、リプトン紅茶パックをプラスティックのカップに入れて渡す。

滋　ありがとう。

知佳　これでも食べて。おやつよ。はい。（ロンドンバスのクッキー缶を開ける）

滋　ありがとう。

知佳　こないだ発見したの、大昔のロンドン土産。おいしいかしら？

滋　君もどう？どれ…

知佳　……やっぱりやめて。お腹壊しちゃう。

知佳、取り上げようとするが滋、抱えこむ。

滋　僕のだ。やめてくれ。

知佳　だめよ！

滋　嫌だ。

滋、かじり、しげしげと形をみる。。

滋　欠けている。僕みたいだ。

知佳　ごめんなさい……（滋を虐待してしまった自己嫌悪に陥り、泣きながらソファーを叩く）

滋　君、変だよ。最近、怒りっぽく乱暴だ。

知佳　辛いのよ。

MEMENTO C

滋　僕も辛い。霧の中にいるようだ。それで今日は…何日か？
知佳　毎日、日曜日。
滋　誰か来るはずだ。予定を見てくれないか。
知佳　予定なんか・・・・(予定帖を見る)あっ！！クルーズ、申し込んだきり…今日よ、今日なの。本当は今日あなたと、クルーズに行く筈だった……(泣き始める)

チャイムが鳴る。あやしい響き

知佳　…(半信半疑で)おかしいわね。チャイム、切ったのに……誰？…

知佳は玄関へと行く。入れ替わりに小林がリビングに現れる。鮮やかなドレス。ピアノの音が聞こえる。滋は朦朧とした状態から、時間が逆転するように活き活きとしていく。

滋　次の方、2番診察室へどうぞ。
小林　清棲先生、お会いできてよかった。小林です。診察して頂きたいんです。
滋　どうされました？
小林　自分の指じゃないみたい。どんなに練習しても動かない。でも、不安で弾くのをやめられないんです。
滋　それはお辛いでしょうから、いっそのこと、やめたら如何ですか？
小林　何をおっしゃるの！死んだ方がましですわ。
滋　それは困りましたね。ではそれ以外に身体に支障はありますか？
小林　眠れないのと、いつもぴんと張ったロープの上にいます。

MEMENTO C

滋　それはストレスですね。
小林　いいえ、興奮と理性のバランスを取りながら綱を渡っていくんです。
滋　何だか楽しそうですね。
小林　ええ。正確に弾くのは当たり前ですけど、自分の表現したいものを、狂うことなく出せるかどうか。あくまで数学的に。
滋　ストップ、もう少し具体的に説明してください。
小林　例えば、英雄ポロネーズ。クライマックスでは、その一拍前に、フィナーレの流れを決めるんです。右手でターンタタンとやって、次の五連符にアクセルをかけるその瞬間に、情熱が頭の中の計画性を壊すのです。
滋　……こういうことかね？制御できない状態が出現する？
小林　出現…そう、そんな感じです。それからちょっとした痛み、急に、中指が折れ曲がって次の音を弾けなくなる。もう、滅茶苦茶。
滋　その症状は、神経伝達の制御系が崩れていると仮定するなら、充分に説明できる。
小林　もうちんぷんかんぷん。でも、理由があるのね！
滋　教えてくれ、君はその時に、別の知覚、例えば目や耳はどこを意識しているのか？
小林　…眼は大抵は弾いてる二小節先を見ています。他人に譜面をめくってもらうと、大抵、遅いのです。
滋　となると、弾いた時の音を耳で聞きながら、視覚は次の次の情報を脳のワーキング・メモリーに取り込み、それを指令系に伝えて……それじゃ腕以外の、足は？
小林　足はペダルを踏みます。弾いた後に踏むんです。指と一緒じゃありません。
滋　ええ？ちょっと踏んでみて。
小林　ええ？
滋　僕の肩が鍵盤で、足がペダル、さあ。

MEMENTO

小林　よろしいの？（踏む）
滋　痛い！……（膝をつく）
小林　先生！ごめんなさい。
滋　面白い！不思議なことに、そうやって彼女の反応を解き明かしていく内に、様々な実験のイメージが湧いてる。君の脳の電位を測定しよう…

照明が変わる。紅茶もこぼれている。知佳が戻ってくる。

知佳　…きっといたずらね。誰も居ない……どうしたの？
滋　今、そこに彼女が……（振返ると小林はいない）
知佳　え？
滋　ピアノを弾く女。
知佳　誰も居ないわ。すぐ戻ったでしょ？居たら分るわ。
滋　居た。居たよ。
知佳　誰も居ないわ。一分も経ってない。
滋　もし今、見たことを無いと言うのなら、僕の人生はほとんど無意味だったってことさ。
知佳　そう無意味よ、私の人生だって無意味よ。ボロボロよ。ちょっと何？濡れてるわ……立ってごらんなさい。どうしたのよ？
滋　またそんな顔をする。
知佳　……間に合わなかったの？どうして失敗するの？
滋　失敗してない。
知佳　濡れてるじゃない！！いい加減にして。こないだから言ってるでしょ。

MEMENTO C

滋　濡れてない……
知佳　いいから見せて！
滋　嫌だ！触るな！

逃げ回る滋、追いかける知佳。知佳はタオルを丸めて奥へ投げつける。

知佳　……私が不適切な行為を行なうのはあなたのせいよ！

滋は奥へと逃げていく。
ケアマネ、村田、ジャニスらの声がして、三人が現れる。知佳、ソファに倒れこむ。

村田　……清棲さん！
藤井　…失礼します！
知佳　ちょっと勝手に人の家に…！
藤井　御免なさい。…お手紙、読んで頂けました？
知佳　ほっといてちょうだい。
ジャニス　お庭の金木犀、昨日の雨で落ちて。ほら、いい香り。

ジャニス、ポケットの金木犀の粒を掌に入れて知佳に近づける。

知佳　ああ…匂う、トイレ…トイレよ。
ジャニス　え？

MEMENTO C

知佳　匂うでしょ？トイレが詰まったの。あの人が変なもの流して。
藤井　他にお困りの事はありませんか？
知佳　…困ってるわよ。全部、全部。
藤井　玄関の鍵は？
知佳　ピーピーうるさいし、娘が見張ってるから解約したわ。
ジャニス　宜しかったら、お手伝いさせて下さい。
知佳　無理よ、あの人おかしいもの。誰も居ないのに誰かいるって言って。それも女が。
ジャニス　オー・ジーザス！
藤井　よくある幻覚です。知佳さんは大丈夫ですか？
知佳　眠れないわ。それにあの人、夜になると起きて出て行こうとする。私は一歩も家を出られない。

奥から騒ぎが聞こえる。

滋　（録音）触るな！自分でできる。
村田　（録音）清潔にしましょう。
滋　（録音）君に言われたくない。僕は……冷たい！やめろ！

知佳　もう三週間もお風呂に入らない。
ジャニス　…あちらを手伝ってきます。（奥へいく）
藤井　娘さんがご心配されてます。
知佳　あの子は人を馬鹿にすることしか知らない。しかも自分の都合ばっかり。
藤井　役割を分担されてはどうです？

MEMENTO C

知佳　分担？役割？どうせ主婦なんか誰でもできると思ってるんでしょ？私はずっと一人で何から何まで支えて……誰にものを言ってるつもり？

藤井　冷静に、ちょっと深呼吸を……

知佳　あなたも主婦を馬鹿にしてるでしょ？奥様が古いって？台所だって政所だって大事なものは奥にあるのよ、奥様よ！

着替えた滋、村田、ジャニス、戻ってくる。

ジャニス　ドクター、すっきりしたでしょ。

滋　私をどうするつもりだ。

村田　清棲先生……さあ、ここにお座りください。バイタル取らせて頂きますね。

滋　まるで病人扱いだ。

ジャニスは体温血圧測定器を取り出し、滋の腕にまく。村田、滋の背中に聴診器を当てる。

村田　はい、息を吸って……吐いて……吸って……吐いて……吸って……吐いて……

滋　スーハー……

村田　体温三十六度八分、血圧135/80・脈拍65、緊急性はありませんね。

滋　君は内科医かね？

村田　訪問看護師です。では両手を前に出して、掌を上に向けて……

滋　これは得意だ。狐もできる。

村田　次は片足で立ってください。

MEMENTO C

皆に助けられて立つ滋。よろよろしている。

村田　はい、1，2，3，4，5、大丈夫ですね。

滋　君、こっちの手をみてくれ。

（村田、置いてあったハンマーで左右の肘を叩く）

滋　私は自分で自分を診ることができない。

村田　清棲先生、やはり私をお忘れですか？それとも思い出したくない？

滋　君？どこかで会ったかな？

村田　残念です……村田です、村田浩一です。研修医時代からお世話になりました。

滋　え？誰だって？

村田　清棲先生、あなたの脳神経内科の部下ですよ。

知佳　村田さんが？！

滋　君、僕の身体がどうなってるのか、ぜひ説明してくれ。

村田　あくまで、可能性ということですが、先生が認知症でない場合、部分的な記憶喪失が考えられます。もしこれが記憶の問題ではなく、脳機能の問題として考えるなら、他人の顔が見分けられない相貌失認（そうぼうしつにん）は視覚関連野（しかくかんれんや）、とくにこの辺りにある紡錘状回（ぼうすいじょうかい）に損傷の可能性があり、脳の右半球後部に異常があれば、人や場所を認知する能力に影響が生じます。しかし……それらと同等、いやそれ以上に、あなたが私を知らないと主張するのは……清棲先生、あなたが嘘をついているからです。

滋　嘘じゃない。

MEMENTO C

村田　私は、先生に是非、伺いたいことがある・・嘘であってほしい。・・
滋　知らないものは知らない。
村田　それなら、やはり病院へ。何かが起きています。この説明でご納得いただけましたか？

滋、頷く。

知佳　良かったわね、あなた。…良かったのかしら。

溶暗・音楽

第九場　２０１９年１月末　清棲家リビングと書斎

それから一月後。理子、鈴木、知佳、村田、丸山がリビングに集まっている。

知佳　皆さん、よくお集まり下さいました。村田先生、よろしくお願いします。
理子　お久しぶりです。裁判以来ですものね。
村田　……その節は…
鈴木　私は、あなたが関わることに反対しています。しかし、理子が…
丸山　そんなことで集まったんじゃないだろう？今日来たのは、滋のこれからについてだ。いいことだけを話してくれ。
知佳　お願いします。
村田　清棲先生はあれから適切な投薬とケアによって、深刻な状態から軌道修正されつつあります。

MEMENTO C

知佳　軌道修正？あの人、大して変わってないように思うけど。
理子　ブー！いい事を話すの。
知佳　お前、分かってないわね。お父さんは元々、どこへでも好きな方へ飛んで行く、いかれポンチよ。
丸山　はい、知佳ちゃん、君がそれじゃいけない。希望を、もっと希望を。
鈴木　では、先生が意思表示出来る内に銀行などの手続きを進めては？……
知佳　今の、空耳？
理子　お母さん、そんなの常識よ。
知佳　あんた達の好きなようにはさせないわよ。
理子　何も財産よこせって言うんじゃないわ。今しかできない事があるってこと。
知佳　この娘はハイエナよ。
村田　こちらのおっしゃる通りだと思います。清棲先生は、今ならまだ理解力もあります。できるだけ病気の進行を遅らせ、その間にご家族の関係修復をするのが最善のケアです。
知佳　だけど…何を信じていいのか…身内も何だか信用できないの。
鈴木　お義母さんは、この病気の先がまだ分かっていません。
知佳　私を怖がらせる気？
丸山　もっと滋のことを本気で考えてくれ。本人が一番辛いんだよ。
村田　アルツハイマーには結局のところ、日常のケアが最も有効です。もし介護が不適切な場合、被害妄想や攻撃性が家族に向けられ、徘徊や暴力などで出口が見えなくなることも…
知佳　もうやめて、私のせい？私が悪いの？そう思ってるんでしょ？
丸山　違うよ。
理子　村田さん、父を恨んでるでしょ？
村田　過去に拘っても仕方ありません。

MEMENTO C

理子　でも……
村田　裁判の後、私はアルコールに溺れました。けれど、私にも大事な家族が居た。だから看護学を学び直し、こうやって介護ステーションで生きてもいいじゃないですか。
理子　どう謝ればいいのか…ごめんなさい。……実際、父が何を考えていたのか分からない。それに真実も。
村田　真実…私は、本当の先生を掘り起こすつもりです。
知佳　本当の…あの人？
村田　理解していただきたいのは、これから先生は我々とは違う瞬間を生きる人になって行くということです。私は、本当の先生を掘り起こすつもりです。あなたも知りたくないですか？

リビングは溶暗。
フォーカスは書斎にうつる。ジャニスがスマホの写真を滋に見せている。

ジャニス　これ、私の子ども。まだ小さい。私は沢山仕事します。子ども、勉強たくさんして、ドクターになる。
滋　うん…楽しみだな。今日は本当に有難う。
ジャニス　ドクター、庭を散歩しましょう。
滋　もう夜かい。
ジャニス　まだ明るい。あれ？あそこに動物！あれなに？
滋　リス？……鹿だ。（注意深く）
ジャニス　あ、こっちを見てる。すごい！あ、逃げた！

モズの啼き声

滋　珍しいなあ……あの谷間を超えると池があるんだ。夏になると蛍がいる。ほら、あの赤い花は桐だよ。動物はいいなあ。小便を垂れても食い散らかしても、責める者はいない。僕はどうなるのかね？

MEMENTO

ジャニス　忘れていく…みんな。でも苦しくない。

滋　そうだ、鹿になれば苦しみもないな。そうなったら僕は山に入って死のう。獣に食われてもいい。自然のままに。

ジャニス　それはよくない。家族は悲しい。

滋　山は僕を拒まない。ほら……僕を触っていく風の…やさしさ。

風の音・暗転・音楽

第十場―1　2019年2月　・ショートステイ先の施設の診察室と、過去のロンドン治験

診療室。椅子に滋が座っている。思いつめた様な表情の村田。

村田　お名前を教えてください。

滋　清棲滋

村田　年齢は？

滋　六十八、六十九…かもしれない…。

村田　ご職業は？

滋　医師。

村田　御勤めは？

滋　治承大学医学部附属病院脳神経内科、それから…どこか…

村田　今日は何月何日何曜日？

MEMENTO C

滋　……私には意味がない。
村田　あなたが住んでいる県は？
滋　もうどこにも行けない。今日は何の検査だ？もう私を試さないでくれ。
村田　では、私は誰でしょう？思い当たることを言って下さい。
滋　……医者だよ、キャリアもある。そして怒っている？
村田　その通り。あなたが私のキャリアを奪った。
滋　・分からない
村田　それでは、この蓋を開けてください。（ペットボトルを渡す）手の震え、ひどいですね。
滋　・・できない（ペットボトルを返す）
村田　なぜ早く治療しなかったんです？
滋　認めたくなかった。病の底は辛い。私はいろいろ忘れるが、この絶望だけは忘れない。
村田　あなたの発症は三年前位、若くて進むスピードも速かった。もともと拘りの強い性格で、家族も気付くのが遅れた。私は誰よりもあなたを治したい。
滋　ありがとう。私は医者としてするべきことをしたのだろうか？
村田　ええ。あなたは難病患者に出来得る限り治験の機会を作り、熱心で親切な医師でした。
滋　ありがとう、嬉しいよ…いつも責められてばかりでね。
村田　「我々は病名をはっきりさせるまでに、患者の時間を使い果たす」だからあなたはそれを悔やみ、私も悩みました。
滋　そう…
村田　新薬が現れない限り医者はお手上げ。
滋　患者が聞いたことのない病を告げるだけ。その後は、打つ手なし。
村田　助かる可能性が1％でもあれば患者は何でも試したい。だから製薬会社はあなたを便利に使った。

MEMENTO C

滋　君はセンスが無いな。私ならこう言うね、渡れない川があるだろ、そこに船が来たら、その船頭が天使でも、悪魔でも船に乗る。あそこにいるだろう？ほら、治験コーディネーターだ。

ＭＲ(鈴木)が空間に現れる。

ＭＲ　清棲先生、治験のフェーズ1が無事、成功しました。次のフェーズ2にご参加頂ける日本人の患者さん、如何でしょうか？今までにない薬で神経難病の方の光になるかもしれません。

小林　川のほとりでずっと待つのは嫌。七夕みたいでしょ？　先生、私、どこかへ行きたい。ここじゃないどこか。

村田　あなたが話せば、大抵の患者が治験に前向きになった。

ＭＲ　次の治験はロンドンで行われます。フェーズ2のダブル・ブラインドテスト(二重盲検)。投与量も最大値で試験します。国内では到底望めない規模の治験です。

小林　どうかお願い！　私を生きさせて。

滋　ピアノが弾けなくたって死ぬわけじゃない。あの薬は、もっと重篤な病気の為に開発されたものだ。人生には他の選択肢も…

小林　病いの重さを他人に決めてほしくありません。私は諦めたくない。

ＭＲ　フェーズ2の結果発表は、清棲先生にも現地にご招待しますので、立ち会って頂きたい。フェーズ3では日本で大々的な治験を行い、国内で先行承認を目指します。その後は東アジアを中心として販売……

小林　清棲先生！有難うございます！きっと私はよくなる。ではロンドンでお会いしましょう。

固定電話の受信音

村田　清棲先生、メディ・ファーマからです。フェーズ2で重篤な副作用、死亡例が出ました。

滋　もしもし…治験中止？そんな…馬鹿な…

MEMENTO

ロンドンで会う小林と滋。ポロネーズが響く。

小林　ロンドンへようこそ。私は蘇ったんです。

滋　申し訳ないが治験は中止だ。

小林　なんですって？冗談でしょ？私、先週からクイーンズ・カレッジのホールを借りてリハビリを始めたんです。

滋　君は本当に幸運だ。しかし、これ以上は危険だ。

小林　待って！他の人には悪くても、私には効いたんです。どうして駄目なんですか？また鎮痛剤や抗うつ剤を処方されるんですか？

滋　この先は分からない。

小林　見て私の指を…私の希望、これだけはあなたにも奪えないはずよ。

ＭＲ　万人に安全かつ、効果がリスクを上回る結果でなければ、薬剤は社会で認められません。そして多数の患者の為の開発を優先します。

小林　先生…川のほとりで待ちくたびれて死ぬのか、川を渡ろうとして死ぬのか？それを超えてもまた川があるのかもしれない。でも、もう待つのは嫌。

遠ざかるポロネーズの音

滋　そして彼女は私の視界から消えていく。軽やかな音だけを残して。

MEMENTO C

村田　いつもあなたから課題を与えられ、私は夢中で取り組んだ。……でもあなたは、自分を慕う人間に、自己犠牲を崇高なものとあえて勘違いさせた。その所為で一部の人間はあなたへの依存を恋愛と混同し、不適切な関係を…

滋　待って…みんな私のクライアントに過ぎなかった。

村田　クライアント?…あなたは、それで平気なんですか?

滋　平気?……一体、私が何を?

村田　誰もがみんな、あなたのミスを庇った。あなたの医療ミスを。

滋　まさか、そんなはずはない。

滋、信じられない顔。SE・救急車サイレン

村田　……2010年8月17日、午前三時二十五分におきた救急患者の誤診で、あなたは私を人身御供にした。ひょっとしたら最初から手遅れだったのかもしれない。患者は内科の点滴で意識を取り戻した後も、言葉の異常、ふらつきがひどかった。それで、あなたは脳梗塞を疑い、翌日にMRI検査をオーダーした。

滋　正常な対応だ。

村田　ところが、あなたは治験の為にロンドンへ出発。その間、患者の脳症は進み、ウエルニッケ脳症からコルサコフ症候群を発症。

滋　コルサコフ…ビタミンの点滴は?

村田　そう、極めて初歩的な処置。しかしそれは為されなかった。…改ざんはあなたの指示ですか?

滋　分からない、ありえない。

MEMENTO C

村田　……私ははめられた。患者の家族はもっと適切に点滴がされていればと怒り、いつしか主治医は私とされ……あなたはそれを知らないと言った。

滋　いや、違う。私こそが陥れられたんだ。

村田　…あなたは難病患者の治験のことしか頭に無かった。カルテ改ざんには医局も関わっているはずだ。

滋　違う。絶対に違う。

村田　思い出して下さい。正直に！あなた、あの裁判でも、知らないと言った。

滋　今も知らない。

村田　嘘だと言ってくれ！……あなたの病いは辛すぎる。

滋　病？この煮えたぎったものが？…ではあれは何だろう。ほら、あそこ。

村田　え？

滋　あそこに黒い大きなものが。

村田　先生？

滋　私の方に向かってくる。君には見えないのかね？もうそこにいる。私を飲みこむ……

滋は前方を見ながら硬直していく。

滋　(録音)「…喉がつかえた。言葉の出口が見つからない。」

村田のスマホが鳴る。びくっと反応する滋。曽根村の声。

村田　落ち着いて。もしもし……

曽根村　(録音)村田先生、今更どういうおつもりですか？私を脅す気ですか？

MEMENTO C

村田　今、清棲先生と話し会っている。君にも改めて聞きたい。カルテ改ざんのこと。

暗転・二人は去る。

第十場―2　同じ頃の清棲家のリビング

リビングに曽根村と知佳がいる。二人は、険悪な様子。知佳は、怒りをぶちまけそうになるのを理性で押さえている。

曽根村　それで、奥さん、話ってなんです？

知佳　あの……気が付いていらっしゃったんですよね。主人の病気のこと。

曽根村　はい？

知佳　あの…皆さんは…本当は…

曽根村　はっきり申し上げます。清棲先生はちょうどいい時に骨折したんです。物忘れ状態で、なんというか…トンチンカンなことも。

知佳　じゃあ知ってて…。

曽根村　一部の人です。

知佳　あの……どうしてうちの夫は…他のことはどんどん忘れて、でも、カルテのことやあなたのことばかり…

…何かその……

曽根村　もう、お会いすることもないでしょうからお伝えします。あの事故は清棲先生の所為なんです。でも先生は自覚なし。

知佳　え？何のこと？

曽根村　…あの事故調査委員会で、村田先生はお気の毒でした。

MEMENTO C

知佳　でもそれは裁判で…

曽根村　言ったもの勝ち。私、先生が嫌いじゃないですよ、でも先生は患者の為と思わせて、私に時間外労働をさせる。裁判の後、先生は過去のカルテを調べ尽くそうとして、当直の夜も休まずに……でもそれには協力者が必用なんです。それに、混乱にはちゃんと理由があるんです。

知佳　理由って…三分前のことだって怪しいのに。

曽根村　そうだ、奥様が一番知りたかったのは、別のことですよね。ここ十五年位の事しか知りませんけど…

知佳　もう帰って!!帰ってください!

曽根村、怒って出ていく。

知佳はソファで泣いている。丸山が現れる。

丸山　独りの時は鍵をかけた方がいいよ。

知佳　……タッチャマ……

丸山　滋はショートステイだって?君は本当によくやってる。たまにはゆっくりしないとね。

知佳　…私、ようやく一人になれた。

知佳　私はあの人の何を見て来たんだろう。嘘ばっかり。

丸山　いいところだけ、最高じゃないか。

知佳　最悪よ、いい年して嫉妬なんてみっともない。

丸山　嫉妬か。嫉妬なら負けないぞ。何しろ僕は一度も、滋に勝ったことがない。あいつを誰もが褒める。どんなに悪い奴か誰も知らないで。

知佳　やめてよ。

丸山　僕は、君が全部、解ってると思ってた。

MEMENTO C

知佳　あの人をわかってるのは私だけ。他の女は無理。まだ愛せる、まだ愛せるって……頭おかしいのかしら？

丸山　笑っちゃえよ。医者は聖人君子じゃないといけないって誰が決めた？

知佳　……そうあって欲しい。そうあるべきよ。

丸山　笑えよ。笑えば大抵のことは通り過ぎていく……

知佳　タッチャマ……

丸山　さあ！これから楽しく食事をしよう。

知佳　有難う。

丸山　その前に、デパートで幸子の洋服を選んでくれないかな。やっと一時帰宅するのさ。そのお祝いだ。

知佳　わたしが？

丸山　僕が選ぶよりましだろ。一年半ぶりの帰宅だからね。階段にはリフトまでつけたんだ。

知佳　分かった……すぐに支度するわ。ちょっと待っててね。

知佳、奥へいく。丸山、落ちていた写真を拾う。

丸山　やれやれ…思いやりってのは、結局のところ嘘の塊だと思いませんか？

暗転・音楽

MEMENTO C

第十一場―1　2019年の秋～2020年初頭　清棲家リビング

1　リビング

滋（録音）二年前、私は自分がすこぶる健康だと思っていた。しかし、骨折してからは転がり落ちるような人生を送っている。こないだは自分の脳をスライスした画像を見て、どこかピーマンに似ていて、海馬が疲れて丸まっているのに驚いた。人は、私がアルツハイマーの中期だと言う。いくつもの患者の症例が頭の中に浮かぶが、それをうまく取り出して考えることができない。その気持ちを説明しようとして、とてつもない葛藤と苦しみが押し寄せる。私の心は迷路をさまよっています。

車椅子の滋、知佳が一緒に昔の写真を見ている。滋の病状はかなり進行している。

知佳　これを見て。（アルバムの写真をみせる）ほら、すてきよ。ここはテニスコートよ。

滋　…行ったことがある…。

知佳　ええそうよ、軽井沢。あなたの隣にいる人、楽しそうね。

滋　ん？…美人だな…ああ、君か。

知佳　そうよ。一緒にボートに乗ったわ。ほら、この写真。湖よ。

滋　僕かな？

知佳　ええ、こうやってしっかり腕を組んで。私、覚えてるわ。国家試験に受かったばかりだった。若いわね。

滋　試験……勉強したなあ。ああ、丸山だ。

知佳　タッチャマ、若い！…ほら幸子さんも……

滋　あいつだ、若いころから老けてたなあ。

知佳　ほんとね、全然変わらない。

MEMENTO

滋　研修医、つらかったな。
知佳　私は寂しかった。理子と二人でずっと帰りを待ってたのよ。
滋　理子？
知佳　娘よ。ほらこれ見て。医局の当番の時。白衣が最高にかっこよくて、こういうあなたに色んな女が群がって……地味な私を見て驚くからおかしくて。ほら、理子を膝にのせて…
滋　娘がいるのか。
知佳　……元気よ。
滋　そうか、娘…うん、娘だ。君によく似ている。会いたいな。
知佳　……滋……私、今のあなたが一番好きよ。
滋　好き、好きとは…
知佳　このままでいいってこと。
滋　…そうか……何か、この気持ちを明日に持ち越せない。つらい。…知佳、僕は今、死にたい。今、すごく幸せなんだ。
知佳　あなた……
滋　今、分ったよ。もし君を解らなくなったとしても、僕は君に会うたびに、恋をするだろう。…何度でも。
知佳　何を言ってるのよ。よくなるわ、きっと。
滋　君のお陰だな、こうしていられるのは。
知佳　滋が戻ってきた。嬉しい。

滋を抱きしめる知佳

滋　（録音）その温もりはどんな薬よりも大脳皮質を温める。だから僕は、僕に戻り、一瞬の間、水面に浮かぶ。

MEMENTO C

数カ月後の十月
ジャニス、理子、鈴木、村田が現れる。滋、更に衰えている。

理子　お帰りなさい。お父さん。待ってたのよ。
ジャニス　今日もまたデイサービスで爆発です。他の利用者さん、ゼントーヨー、ソクトーヨー、誰も知らない。
滋　みんな、ちゃんと診察すべきだ。
ジャニス　…ドクター、ノーベル賞間違いなし。
滋　有難う…治る見込みのない患者ばかり…君らは怠慢だよ！！
理子　そんな失礼なことやめて。
ジャニス　ダイジョウブです。ドクターの言うこと難しすぎて誰も分からない。さあ、楽しいことしましょう。今日はドクターのバースディですね。デイサービスからドクターに、記念品とカードのプレゼントです。（ジャニス、紙の冠をかぶせる。）
理子　お父さん良かったわね。
知佳　ほら、あなた。良く写ってるじゃない。

知佳、カードを持たせる。滋、それをじっと見る。

♪　ハッピバースディ　トゥー　ユー！
ハッピバースディ　トゥー　ユー！
ハッピバースディ、ディア　ドクター

MEMENTO C

滋、いきなり冠とカードを放り捨てる。

知佳　なにをするの！

滋　これは僕じゃない。

理子　せっかく皆さんがお祝いしてくれたのに。

滋　・・僕はこんな僕じゃない。

理子　父さん、少し年取っただけじゃない。

滋　馬鹿な・・僕は、こんな僕じゃない。。

ジャニス、破れたカード、冠を拾う。

ジャニス　ごめんなさい。ドクター。

知佳　すみません、本当に。

鈴木　申し訳ない。先生には、こういうものは合わないな。

ジャニス　来年はもっと若い写真を。それかジョニー・デップとか…済みません。

皆、押し黙る。

滋　言ってくれよ、君はこんな僕でいいのか？

知佳　……いいわ。

滋　いいわけがない！

MEMENTO C

理子　父さん、私はこのままでもいい。お父さん……理子はあなたが大好きよ。いい加減で楽しくて素敵なお父さん……

滋　……君は誰？

理子　あなたの娘よ……（泣き臥す）助けて…村田先生…

村田　再会できて良かった。こうして、先生のケアをすることで私自身にも向き合えた。助けられなかった患者さんへの罪滅ぼしも……。悲しみごと病気を受け入れてあげてください。

理子、滋の耳にスマホをあてる。ピアノの音が漏れる。

理子　聞いて、光子さんのピアノ。あの人ね、もうピアニストは辞めて引退したの。父さんのこと命の恩人だって。光子さんよ。

滋　（聞き入る）……分からない……

ジャニス、理子と鈴木は出ていく。

知佳　……夫の理解力はどんどん落ちていく。こないだ、わざと食事をこぼして…私を困らせようと…

村田　食事の動作、連続した行動の意味記憶が失われ始めています。しかし喜怒哀楽の感性は最後まで残り、心地良さを感じられないと、情報は伝わりません。咎める気持ちが顔に出るだけで影響が出ます。

知佳　つい怒ってしまう自分を止められない。あなた、よくできるわね。

村田　人に尽くすことで自分が救われることもあります。でも、そろそろ入所を考えましょう。

村田は去る。

MEMENTO

また日数が経つ。ジャニスがタオルを持って現れ、笑っている滋の口元の汚れを拭く。

ジャニス　奥さん、きれい好き、でも子どもと一緒。汚れてもやめさせちゃいけない。自分で食べるの大事。

知佳　全部混ぜてしまったら、美味しくないわよ。

ジャニス　毎日、ドクターに何かさせて、字を書いたり、タオルを畳んだり…

知佳　そんなの無理よ。

ジャニス　少しでも出来ること認めて。楽しいことを話して。怒らないで。被害妄想、増える。良くない。

知佳　いいから私に命令しないで。

滋　……ない、ない！どこにもない。カルテはどこだ。おい！早く探してくれ。どこだ。どこだ。

身もだえする滋。

ジャニス　奥さん、手を取ってあげて。（知佳がフリーズしているので）ドクター……深呼吸して、大丈夫、大丈夫。呼吸して、吸って、吐いて、吸って、吐いて…

ジャニス、滋の背中をさする。滋、ポケットから紙幣を出してジャニスに渡そうとする。

知佳　お金をどうするの？

滋　この子にやりたい。

知佳　あなたが要求したの？

ジャニス　違います！絶対！

滋　やるんだ！君には関係ない。

MEMENTO C

知佳　どういうこと？
滋　ジャニスは気の毒だ。夫と別れて子どもがいて…助けてやらないと。
ジャニス　私違う！同情、要らない。やめて下さい。

滋、知佳から紙幣を取り返す。

知佳　痛い……
滋　僕は何もしてはいけないのか？
知佳　だって病気なのよ。何にも分からないのに。
滋　何かしてやりたいんだ。さあ、これもあげよう。

滋、結婚指輪を外してジャニスに差し出す。

ジャニス　ドクター…いけません。
知佳　どうしてそんなに大事なものを。
滋　これを、さあ。僕は誰かに感謝されたい。
ジャニス　ドクター……あなたはやさしい。とても家族を愛してますね。私、娘ではないけれど、今だけ言います。お父さん、ありがとう。愛してます。だから元気になってね。ドクター、神様の愛がきっとあります。だからね、お祈りします。

知佳、ぶるぶる震えながら二人を見る。
ジャニスは滋にもらったものを知佳に渡そうとする。

MEMENTO C

知佳　帰って。

ジャニス　ドクターは尊敬されたい、愛されたい、分かりますか？一人では自分を見つけ出せない。自分を呼んでくれる誰かが欲しい。それが知佳さん。

知佳　もう二度と来ないで！

ジャニス、指輪と紙幣を置き、去る。

滋　分からない。僕は誰で、どこへ行くのか。あちこちに、僕はバラバラになっていく。

知佳　今のあなたが本当のあなたなのよ。だってもう、嘘をつけないもの。

滋　君は僕を、愛してはいない。こんな僕は嫌だ。消えろという声がする。

知佳　消えてはだめ。滋、あなたは清棲滋、清棲先生、清棲先生！

滋　…そうだ…病院…病院へ行かないと…曽根村君を呼んでくれ。

知佳　こんな病気なんか！出ていけ！出ていけ！！出ていけ！

知佳は滋を激しく叩く。滋はされるがままとなる。

丸山、鈴木、村田、藤井が現れる。

丸山　知佳ちゃん！駄目だ！駄目だよ！！！

鈴木　お義父さん、大丈夫ですか？

藤井　…間に合ってよかった。

MEMENTO C

丸山は、知佳を抱きとめる。
村田、藤井、鈴木が滋を介抱する。村田は滋のバイタルをとる。

丸山　知佳ちゃん、君はもう休んでいいんだよ。
知佳　(泣いている)死にたい。
丸山　そんなこと言っちゃいけない。お願いだから。
知佳　私の人生って何？
丸山　聞いてくれよ！あのなあ、幸子がね。幸子が…院内感染で…死んでしまったんだ。
知佳　え？待って……
丸山　リウマチで曲がった足をみんな綺麗に手術してもらって。それなのに、あっと言う間に黄色ブドウ球菌でやられた。部屋にリフトまでつけたのに。
知佳　……
丸山　抗生物質が効かないなんて……悔しいよ。
知佳　タッチャマ…
丸山　僕は幸子に何もしてあげられなかった。君は、こんなに滋の為に、尽くしたんだよ。幸せだ。
知佳　……本当につらいわね。苦しかったでしょうね。
藤井　知佳さん、今日のところは滋さんの緊急入所ということで、ショートステイをご用意しますね。
村田　鎮静剤、使いますよ。(丸山に)
丸山　それがいい。君に死んだ方がましだなんて言わせないよ。
藤井　知佳さん、手続きは娘さんでもできますから、まずはお休みください。
丸山　そうしよう……なあ、僕は幸子にどうしてあげたらいいんだろうね？
知佳　私…私……泣いてもいいかしら？幸子さんとあなたの為に。

MEMENTO C

丸山　有難う。

丸山、知佳を奥へと連れていく。

鈴木　大事に至らなくてよかった。

村田　本当ですね。

藤井　そろそろ要介護4、本来なら入所していて当たり前です。

村田　清棲先生は既に後期なのに、覚醒している時は明瞭なんです。それで余計に辛いし、周囲に適応できない。

鈴木　一つ、提案があります。私が関係する製薬ベンチャーで、中期のアルツハイマー対象の治験が行われます。第一層試験ですが…

村田　無茶だろう。第一層は健常者が参加するものだ。

鈴木　そうですが、理子は同意しています。父さんならするだろうと。

藤井　待ってください。……先生は近い将来、ほぼ眠り、栄養だけで生きる事になります。あと二、三年か、もっと長くか。

村田　それに抗っても仕方ありません。先生はようやく休めるんです。

藤井　……病気で人格が変わってしまうと、数年の苦労でも、ご家族の気持ちの整理がなかなか付きません。ある意味、穏やかな状態になって初めて、家族が向き合える日が来るのかもしれませんね。皆さん、それぞれですが。

村田　ともかく、ここで答えは出せない。ステイ先に先生を送りましょう。

鈴木　明日、また詳細を。

藤井　……さあ先生、行きましょう。

MEMENTO C

鈴木　あなたは幸運だ。こんなに関る人がいるんだから。それではよろしく。

村田、滋の車椅子を押していく。丸山が戻って来る。

丸山　……眠ったよ。まあ人間、長生きし過ぎなんだな。

鈴木　そうかもしれません。

丸山　幸子はこれから思い出に変る。滋も思い出になる。僕もいつかは知佳ちゃんの思い出になる。良い思い出だけにしたい。

鈴木　ええ、全く。まだかなり時間がありそうですね。

丸山　だといいがね。

二人、出ていく。知佳、現れる。

知佳　そう、時間はまだあると思っていました。私はのんきで愚かだったんです。

暗転

MEMENTO C

第十二場　２０２１年４月　療養病床

滋が元気な頃の姿で現れる。

滋　今でも人気のない当直室で、まどろんでいる時間を思い出します。お気に入りのＣＤをかけながら。自分が生きた時間のほとんどを過ごした職場、家庭はその半分位でしょうか。ベッドや施設で一生を過ごし、亡くなる方もいる。今の私がそんな状態です。もう言葉は役に立たない。

（録音）なぜならそれを正しく並べ替え、誰かに考えを伝える方法が解らないからです。私は映らないテレビ、音の出ないラジオだ。私の孤独や悲しみは伝わらず、誰もが私を死んでいるに等しいと思っている。しかしその身体の奥底では心が震えている。ああ寒い。誰か私の心を温めてくれ。私の心にそっと触れてくれ。なぜここで独りなのか、今、私は何もわからない。

車椅子に座る滋、眠り込むように表情が失われていく。

ピアノ曲（ポロネーズ）が流れてくる。光子が現れる。

小林　ご機嫌如何？あら、顔色がいいわね。今日は私を呼び出してくれたの？随分若い頃の私みたい。……あら、あなたもとても若い。力強くて自信に満ち溢れて…よかった。あなたは安らいでいる。今のあなたが一番、素敵よ。またお会いましょう。私の音は、いつでもあなたの中で踊りだせるわ。

光子、去る。ニュース音声が聞こえる。

MEMENTO

ニュース「全国の新型コロナウイルスの新規感染者数は、本日、5916人の感染が確認され、年明けから高い水準での増加傾向が続いています。先ほど政府は新型コロナウイルスの感染拡大に対し、第三回目となる緊急事態宣言を…」

デイルームのアクリル越しに理子、知佳、鈴木が現れ、手をふり何か言っている。

滋　(録音)「視界の中で何かが動く。色とりどりな何か。聞き覚えのある声。

アクリル板の前に座り、滋の手を握る知佳

知佳　あなた、あなた…

理子　お父さん、お父さん……

知佳　やっと会えた。良かった、元気ね。

滋　(録音)「誰だろう。手が暖かい。」

知佳　会えて嬉しいわ。ずっと待っていたわ。これからも待っているから。知佳よ。

滋　(録音)「何かがスパークする。」

知佳　大好きよ、滋さん。

理子　うわ！愛の告白。

知佳　いいじゃない。また何カ月も会えないのよ。ねえ、聞こえる？知佳は滋を待っています。ずっと待ってるから。だから帰って来てね。

滋　(録音)「喜びが私を深い水底から水面へと押し上げる。水晶体に光が差し、網膜に愛しい者の姿が映る。」

MEMENTO

理子　お父さん、早く帰って来てね。
滋　……（発話しようとする）
知佳　え？あなた……あなた……何？
理子　お父さん、しゃべった！？
知佳　滋……滋……
滋　ありがとう。…愛が心にそっと触れた。

音楽・終わり

MEMENTO C

主な参考文献

『記憶と感情のエスノグラフィー：認知症とコルサコフ症候群のフィールドワークから』佐川佳南枝 著 ハーベスト社 2017 年
『愛は脳を活性化する』岩波科学ライブラリー42，松本元 著 岩波書店 1996 年
『意識の川をゆく 脳神経科医が探る「心」の起源』オリバー・サックス 著 早川書房 2018 年
『道程―オリバー・サックス自伝―』早川書房 オリバー・サックス 著 2015 年
『脳神経科学リテラシー』編著 信原幸弘 原塑 山本愛実 勁草書房 2010 年
『脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言 2020』日本神経学会 他

MEMENTO